

令和4年度

年次報告書

分冊：教員の年間活動報告

神戸常盤大学

神戸常盤大学短期大学部

目 次

	頁 数
1. 保健科学部 医療検査学科	2～20
2. 保健科学部 診療放射線学科	21～35
3. 保健科学部 口腔保健学科	36～43
4. 保健科学部 看護学科	44～68
5. 教育学部 こども教育学科	69～88
6. 短期大学部 口腔保健学科	89～100
7. 短期大学部 看護学科通信制課程	101～108

個人年間活動報告書

教員名	坂本秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、PCRセンター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科:臨床検査入門、医学概論、検査機器総論、遺伝額、分子細胞生物学、医療英語、細胞培養演習、BLSキャリアパスI・II、チーム医療論、文献講読、遺伝子工学、遺伝子工学演習、検体採取安全管理演習、臨床検査学演習、先進医学検査学、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、卒業研究 N科:チーム医療論、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II O科:遺伝子と再生				
担当科目コマ数	7. 90				
本年度の課題					
円滑な学科運営 新カリキュラムで必要な臨地実習に向けた全国的な準備					
本年度の目標					
新カリキュラムと旧カリキュラムのシームレスな学科運営					
主な活動内容					
1) 教育活動 成績が低迷する学生に対し個別面談及び電話やメールを通じた指導を行うだけでなく、保護者へも電話にて学生サポートの協力願いを行った。大学院進学希望の学生に対して学習指導を行い、大阪大学大学院と信州大学大学院へ進学した。					
2) 研究活動 研究テーマ：臨床検査技師卒前と卒後教育の連動活動 研究の現状：COVID-19の感染拡大に伴い、POCTの利用に関する認識が高まり、POCTの正しい利用方法の普及など、研究経験が実用化に役立っている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（5回） 論文（4編）					
3) 社会的活動等 日本臨床検査学教育協議会 理事長、アメリカ臨床病理学会 国際資格 日本諮問委員会 委員長、日本臨床化学会 理事 国際交流委員長、日本臨床検査医学会 評議員 チーム医療委員、日本医療検査科学会 評議員 POC技術委員会 幹事、日本臨床衛生検査技師会 国際WG委員					
今後の課題					
臨床検査技師教育を行う学校の団体である、日本臨床検査学教育協議会 理事長として、令和4年入学者から導入される、臨床検査技師卒前教育の実施が円滑に進むよう、本学だけでなく全国での動きを注視し、臨床検査技師教育をより良い内容にできるようにする。					

個人年間活動報告書

教員名	梶 榮	所属学科等	医療検査学科	職名	教授																
委嘱委員・職務	国家試験対策委員長、カリキュラム委員長、危機管理委員長																				
クラス担任	医療検査学科 副担任	クラブ顧問																			
担当科目名	検査入門実習、医学概論、2022ゼミA、臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病検査学実習Ⅱ、細胞検査学演習、臨床検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、組織学実習、臨床検査サプリメント演習Ⅰ、臨床検査サプリメント演習Ⅱ、 検査入門実習（臨床放射線学科）病理学（臨床放射線学科）細胞診養成課程																				
担当科目コマ数	15. 10																				
本年度の課題																					
<ul style="list-style-type: none"> ・第69回臨床検査技師国家試験の合格率の向上 ・M4年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上 国試対策 e ラーニングシステム「国試 SapRe（本学開発システム）」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞診養成課程の高い合格率（100%）の維持 ・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実 ・組織学・臨床病理検査学ⅠⅡでの Sub Notebook の有意義な活用法の検討 																					
本年度の目標																					
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査技師国家試験合格率のさらなる向上 下位学生への教育体制の確立 ・細胞診養成課程の合格率 100% ・授業以外の学修教材の充実（動画を作成し Web 形式での e ラーニングシステム） ・ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業 学修者である生徒が受動的になってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学修方法を取り入れた授業の確立 																					
<p>ラーニング・ピラミッド</p> <table border="1"> <caption>ラーニング・ピラミッドの学習定着率</caption> <thead> <tr> <th>学習方法</th> <th>学習定着率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>読書</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>視聴覚</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>デモンストレーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>グループ討論</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>自ら体験する</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>他の人に教える</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table>						学習方法	学習定着率	講義	5%	読書	10%	視聴覚	20%	デモンストレーション	30%	グループ討論	50%	自ら体験する	75%	他の人に教える	90%
学習方法	学習定着率																				
講義	5%																				
読書	10%																				
視聴覚	20%																				
デモンストレーション	30%																				
グループ討論	50%																				
自ら体験する	75%																				
他の人に教える	90%																				

主な活動内容

1) 教育活動

- ・細胞診養成課程の合格率100%の維持を目的とした教育改革：
iPadを用いた細胞診教育システム
細胞所見を理解するためには、どのような病理組織所見であるかを理解することが重要と考えられる。そのために病理組織所見との対比ができる症例の充実
- ・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実：
クラウドを用いた、病理検査学および細胞診断学講義用ファイルの一括管理および臨床病理検査学で使用する講義に即したSub Notebookの編集
- ・臨床現場で経験した病理肉眼像および病理組織画像を用いた教育：
臨床現場で蓄積した実際の症例を用いた教育
- ・ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業
- ・国試対策eラーニングシステム「国試 SapRe（本学開発システム）」の活用

2) 研究活動

研究テーマ： 体腔液による悪性中皮腫の診断基準の作成
研究の現状： 石綿・中皮腫研究機構・日本肺癌学会での『中皮腫取扱い規約 第2版』の出版を行うことにより、日本での中皮腫細胞診診断に大きく寄与できる。
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
学会発表 3回（ワークショップ 1回、講演 2回）
第63回日本臨床細胞学会総会春期大会 座長
論文 3編 著書（1冊 共著）

3) 社会的活動等

- ・独立行政法人環境再生保全機構 石綿健康被害救済部 中皮腫細胞診実習研修会 講師および実務委員
- ・中皮腫細胞研究会 副代表幹事
- ・日本臨床細胞学会 功労会員
- ・LBC (Liquid based cytology) 研修会 in 滋賀 実行委員長

今後の課題

学内教育 : 4年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上
細胞診養成課程の合格率 100%を一番の目標とする。
「2023 版 臨床検査技師国家試験対策マスタードリル」の完成と、
それを用いた教育
社会的活動：独立行政法人環境再生保全機構中皮腫細胞診実習研修会で講師として
細胞検査士の診断レベルの向上
・細胞検査委の卒後教育および細胞検査士育成に用いる著書の執筆

個人年間活動報告書

教員名	林 伸英	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員長、遺伝子組換え実験安全委員長				
クラス担任	医療検査学科2学年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床化学検査学Ⅰ、臨床化学検査学Ⅱ、臨床化学検査学実習、検査管理総論、臨床検査学演習、臨床検査入門、医学概論、医療安全、総合医学検査特論、総合医学検査演習、大学道場miniゼミ、卒業研究				
担当科目コマ数	11.10				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生にわかりやすい授業と実習を行う。 2. 臨地実習施設のさらなる拡大、指定規則改正に伴う臨地実習の運営計画 3. 研究活動の充実：論文執筆（神戸大学病院との共同研究） 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の興味を引くわかりやすい授業と実習を継続して行う。 2. 指定規則改正に伴う臨地実習の運営を計画する。 3. 研究（神戸大学病院との共同研究）の成果を論文にまとめ、アクセプトを目指す。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>臨床化学検査学、検査管理総論は、国試対策を意識した教科書にそった授業が必要と考えられる。その反面、平坦な授業とならないように動画を使ったプレゼン等を挟み込んで学生が興味を持つ講義になるように努めた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：抗DFS-70抗体および抗核抗体検査DFS型に関する研究（神戸大学医学部附属病院との共同研究）</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、日本臨床検査医学会 評議員・功労会員、生物試料分析科学会 評議員、医学と薬学（自然科学社）編集顧問</p>					
今後の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生にわかりやすい授業を工夫する。 2. 指定規則改正に伴う臨地実習の運営を計画する。 3. 研究活動（神戸大学病院との共同研究）を継続し論文のアクセプトを目指す。 					

個人年間活動報告書

教員名	柄倉匡文	所属学科等	医療検査学科	職名	特任教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会委員長、卒研委員長				
クラス担任	4年Aクラス担任および学年責任者	クラブ顧問	なし		
担当科目名	①医療検査学科：公衆衛生学I、公衆衛生学II、公衆衛生学実習（前期M2、後期M1）、免疫検査学、免疫検査学実習、分子感染制御学演習、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 ②看護学科：公衆衛生学 ③全学：大学道場 miniゼミA				
担当科目コマ数	10.83				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・苦手科目に対する学習意欲を高める方法についての検討 ・研究の発展 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学の国試での得点率を上げる。 ・補足プリントを使って分かりやすい授業を心がけ、苦手意識を克服させる。 ・国際専門誌に論文を投稿する。 					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学は学習範囲が広く、苦手になっている学生が多い。これは国公立を含め、本学に限ったことではないが、実際に国試での得点率が毎年低いのが課題となっている。これまで臨床検査技師の国試には、医師国試（公衆衛生学）の過去問から比較的多数出題されていることから、令和3年度の特論から医師国試の過去問を取り入れ、ドリル形式で解説を行っている。その結果、令和3年度の国試では得点率こそ46.3であったが、偏差値は52.5であり、これは抽出調査対象38校の中では15位の成績であった。ちなみに今年度の得点率は56.8であり、前年度より10点以上アップした。以上のことから、新方式により一定の教育効果が得られていると判断できる。満点を含め高得点者が目立つのも今回の特徴である。要は受験生のやる気次第であり、引き続き、学習意欲と学習効果の向上を目指して指導していきたい。 ・チューターとして成績不振者を対象に面談を行い、丁寧に指導を行った。 ・臨床検査技師 国家試験対策マスタードリル2023（医学書院）分担執筆 <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス（3月7日 神戸鈴蘭台高校）・京都文化医療専門学校 非常勤講師 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・医師国試の過去問だけでなく、医学生向けの問題集に集められている予想問題も積極的に取り入れ、受験生のやる気を引き出す。 ・これまでの研究結果をもとに、研究をさらに発展させる。 					

個人年間活動報告書

教員名	松元英理子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会（委員長）、ときわ教育推進機構、FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	M2 Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎生物、臨床検査入門、生命科学、遺伝子・染色体検査学、遺伝子・染色体検査学実習、臨床検査学発展演習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習、大学道場miniゼミB、現代社会と生命科学、基礎生物学(R)				
担当科目コマ数	10. 17				
本年度の課題					
①遠隔授業で得た授業スキルを対面にも取り入れて、より良い授業を作る。 ②毛根を用いたアルコール代謝酵素遺伝子多型解析についてさらに研究を進展させる。					
本年度の目標					
①対面授業と遠隔授業の利点を組み合わせた授業を構築する。 ②アルコール代謝酵素遺伝子多型解析については、被験者数を増やし、アンケート等を組み合わせた解析を実施する。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 ①遺伝子解析法の原理説明の授業では、コロナ禍の遠隔授業をもとにした復習用動画を作成しmanabaにUPした。また、他の講義科目でも、2年間の遠隔授業で充実させた授業用スライドの一部を復習用資料としてmanabaで公開し、学生が授業時間外学修で活用できるコンテンツを整えることができた。しかし、必ずしも学修成果が上昇したとは言えず、今後学生の理解度に合わせさらなる工夫が必要である。 ②卒業研究のゼミ生と、60名以上の被験者を募りアルコール代謝酵素遺伝子解析およびエタノールパッチテストやアンケート等を実施した。想定以上の被験者のデータをもとに、様々な角度から統計解析を進めることができた。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 駒ヶ林中学校市民救命士講習会にインストラクターとして参加した。					
今後の課題					
入門的な科目（基礎生物など）では、学生に興味を持たせるような内容をより多く取り入れること、専門科目（遺伝子・染色体検査学など）では、学生の理解度を的確に把握しながら学修成果をより上昇させるような授業を行うことが課題である。					

個人年間活動報告書

教員名	堀江 修	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	紀要委員会・副委員長、卒研委員会、就職委員会・委員長 入試委員会、学科研究倫理委員会				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理学Ⅰ・Ⅱ、血液学、血液検査学、血液検査学実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、労働衛生学Ⅱ、予防医学概論、環境生理学、看護解剖生理学Ⅰ、BLSキャリアパスⅠ・Ⅱ、臨床検査学演習、総合医学検査演習				
担当科目コマ数	14、27				
本年度の課題					
教育では人に対する興味をもち、思いやりをもって接することができる人を育てたい。サイトカイン研究の目標は実際患者から検体をいただいて、健常者と比較したい。サーモグラフィ研究では、共同研究ができる病院との研究体制を整えたい。					
本年度の目標					
教育目標は、学生にとってわかりやすく自分の理解も深まるような基本的な講義をすべての教科において実施すること。担当教科の内容のブラッシュアップを頻回に行って内容を最新のものにすること。講義プリントの事前配布や判読後レポート返却はすみやかに行いたい。研究目標は、停滞していた研究活動を再開し、学会発表を2本、論文を1本完成させたい。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をほとんどの講義科目で行うことができた。実習科目はレポートの内容をよく読めたが返却は遅れた。					
2)研究活動 研究テーマ：1.「サイトカインストームに関する研究」、2.「新興感染症制御の国際標準化と看護学への応用を目指したサーモグラフィ」、3.「放射温度計によるCOVID-19判定ガイドラインと看護師の暴露予防システムの構築」 研究の現状：COVID-19感染時やCAR-T療法の妨げになるサイトカインストームが起こった時にはregulatory系細胞も細胞傷害を起こすと思われる。B細胞性白血病であってもタイプによっては、放出される細胞傷害性因子が異なることがわかった。サーモグラフィ研究では、コロナ禍において研究は進まなかった。					
3)社会的活動等 行っていない。					
今後の課題					
教育では人に対する興味をもち、思いやりをもって接することができる人を育てたい。サイトカイン研究の目標は実際患者から検体をいただいて、健常者と比較したい。サーモグラフィ研究では、共同研究ができる病院との研究体制を整えたい。					

個人年間活動報告書

教員名	新谷 路子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、SD委員会副委員長、教務委員、全学保護者会				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場 miniゼミ、基礎検査学、基礎検査学実習、解剖組織学、病理学、人体のふしぎ、チーム医療論、検体採取安全管理学演習、医療コミュニケーション、文献講読、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、臨床技術入門				
担当科目コマ数	10.53				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の事前・事後学修用のプリントの改良。 国家試験対策用の配布プリントの内容を見直し、得点アップに結びつける。 ・研究成果をまとめる。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔で分かりやすい講義資料、書き込みやすい事後学修用のプリントを作成する。 ・研究成果をまとめ、学会発表を行い、論文発表する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で用いる資料を見直し、要点が明確になるよう簡潔化し、分かりにくい項目や重要ポイントは図や表にまとめた。学生の反応を見ながら今後も継続していく。 ・国試対策では、基本的事項をまとめた暗記用プリントの内容を厳選し、書き込み用ワークシートを配布した。学生がより効率よく知識を定着させていくためには、アウトプットの機会を増やす等、さらに工夫を施す必要があると考える。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度後期・神戸常盤大学公開講座講師『尿は何色？～尿から健康を考える』 					
今後の課題					
<p>教育：学生の『授業以外に学修した時間』が伸びるように、取り組みやすい事後学修用の書き込み式プリントを作成する。</p> <p>研究：研究結果をまとめ、学会発表を行い、研究成果（論文1報）を発表する。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	布引 治	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会委員長、教育研究開発推進センター副センター長、広報委員会委員、細胞検査士委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床検査入門、ミニゼミ、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論、細胞検査士養成課程				
担当科目コマ数	11.30				
本年度の課題					
細胞検査士教育プログラムの拡充。細胞検査士試験合格率の維持。効率的な教育プログラムの新規開発。いずれも目標達成できたが、テキスト教材倍増による印刷費が増えた。					
本年度の目標					
1, 細胞検査士試験合格率の維持 2, 細胞検査士教育用デジタル教材の作成。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 細胞診教育成果向上を目的に、わかりやすい内容のサブテキストを作成した。目標とする学修成果を見極めることができ、細胞検査士試験は今回も全員合格、全国成績トップの高い合格率を維持できた。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 日本臨床細胞学会評議員、同学会施設認定制度委員会委員、同学会細胞検査士委員会委員、日本臨床細胞学会近畿連合会理事、兵庫県臨床細胞学会理事 日本デジタルパソロジー研究会理事、兵庫県細胞検査士会理事 医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）					
今後の課題					
引き続き細胞検査士試験合格率の維持。物価高を踏まえ印刷費を抑えたデジタル教材作成に力を入れる。					

個人年間活動報告書

教員名	鈴木高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国際交流センター・センター長、ライフサイエンス研究センター・センター長、カリキュラム委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	国際理解、科学技術論、大学道場miniゼミB、免疫学、免疫検査学、免疫検査学実習、医動物学・実習、公衆衛生学実習、国際保健活動I、国際保健活動II、分子感染制御学演習、バイオインフォマティクス、医療英語、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	7. 27				
本年度の課題					
適切にエフォートを振り分けて、教育・研究・社会貢献活動をより一層進める。					
本年度の目標					
研究の推進と論文発表 国際交流活動の推進					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 これまでの担当科目の実施に加えて、新たに担当することになった「国際理解」「バイオインフォマティクス」の講義準備・授業実施を行った。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 ○国際交流センターの活動の一環として、神戸国際コミュニティセンターと共催で、「スポーツしながら国際交流」会を開催した。 ○大学コンソーシアムひょうご神戸国際交流委員として、コンソーシアム活動に参加した。					
今後の課題					
研究の推進と論文発表 本学並びに外部と連携した国際交流活動 ライフサイエンス研究活動の推進					

個人年間活動報告書

教員名	大澤 佳代	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員長、学内実習安全委員長、遺伝子組換え実験安全委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物検査学I, 病原微生物検査学II, 感染制御学, チーム医療論, 検体採取安全管理演習, 病原微生物検査学実習I, 病原微生物検査学実習II, 総合医学検査特論, 医療安全, 大学道場miniゼミ, 卒業研究				
担当科目コマ数	14.63				
本年度の課題					
担当科目の講義・実習内容を各学年の進度に合わせて構築する。					
本年度の目標					
各科目における微生物検査学を中心として興味を導き、国家試験対策へつながるように意識した内容とする。					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 各担当講義科目は対面講義を中心としてmanabaも活用しながら、各学年の進度に合わせて講義内容を構築し、配布物や復習を行えるようにした。特に総合理学検査特論での国家試験対策がスムーズに進められるように工夫した。 各担当実習科目は白川先生とともに内容を吟味し、各学生が実習内容を深く考察できるよう工夫した。 <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>研究テーマ1：薬剤耐性細菌における耐性機構の解析ならびに新規抗菌薬の開発</p> <p>研究の現状：日本における薬剤耐性細菌(淋菌、腸内細菌科細菌)の病原性や薬剤耐性機構の解析の状況を確認し、関連論文を公表した。また、名古屋工業大学との共同研究として、新規抗菌薬の薬剤耐性菌、特に真菌に対する効果を実証し論文を投稿中である。</p> <p>研究テーマ2：小児・新生児におけるタイチン測定の意義</p> <p>研究の現状：神戸学院大学との共同研究に基づき、小児・新生児におけるタイチン測定の意義を確認した。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照</p> <p>学会発表（ 9回） 論文（ 6編） 著書（ 冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸大学大学院保健学研究科客員教授（兼任） 					
今後の課題					
今年度は研究代表者として科研費継続課題（基盤研究C）1件の他、科研費継続課題（基盤研究C；研究分担者）1件、AMED継続課題1件（研究開発分担者）ならびにAMED継続課題（研究協力者）2件があり、研究の推進と論文発表を行うとともに、微生物検査学に対する学生の学習進度の差を解消し、国家試験合格に向けた講義・実習を検討する。					

個人年間活動報告書

教員名	坊垣美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	準教授
委嘱委員・職務	教務委員 学科国家試験対策委員 学科カリキュラム委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 サプリメント演習Ⅰ 臨床化学検査学実習 臨床検査学演習 臨床検査学発展演習 サプリメント演習Ⅱ 卒業研究 総合医学検査演習 総合医学検査特論 生化学（診療放射線学科）生化学（看護通信制課程）				
担当科目コマ数	12.20				
本年度の課題					
新カリキュラムのスタートに際して、学生の科目履修を支援する。旧カリキュラムの学生の新カリキュラム下での再履修を適切に進める。					
本年度の目標					
①旧カリキュラム科目単位未修得者の新カリキュラム下での履修指導を適切に行う。 ②新カリキュラムで令和4年度に修了する科目（生化学実習）の学修指導を徹底し、全員の今年度中の単位修得を目指す。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 ①教務委員として旧カリキュラム科目単位未修得者で、特に再履修上の問題が生じる学生に対して支援を行った。概ね円滑に再履修を進めている。 ②令和4年度で修了する生化学実習は、課題・レポートの提出、実習の解説等指導を徹底した。体調不良で受験資格を失った学生1名を除き、他の学生全員が単位を修得した。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等					
今後の課題					
令和4年末で退職するため記述なし。					

個人年間活動報告書

教員名	田村 周二	所属学科等	医療検査課	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学 I A、生理機能検査学 I B、人体の不思議 (F)、生理機能検査学実習 II、総合医学検査演習、生理機能検査学演習、生理機能学実習 I、BLS キャリアパス I、BLS キャリアパス II、総合医学検査特論、卒業研究、臨床検査入門、臨床検査総論 (N)、画像診断機器学実習 I (R)、画像診断機器学実習 II (R)、診療画像検査学 II (R)、臨床技術入門 (R)、				
担当科目コマ数	17. 57				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・就職委員活動において学生との信頼関係の構築、並びに推進活動の実施 ・各医療施設の担当学生と密な連絡をとり、臨地実習委員に臨む ・第1～36回リカレントオープンカンファレンスまでを考察してまとめる 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・BLS キャリアパスとの連携を密に図り、学生一人一人と信頼関係を構築し、就職活動の成果を高め、それぞれの学生あった就職先の斡旋を実施していく ・臨地実習に向かう学生への医療施設実習に赴く心構えと十分な配慮を支援する ・平成30年度7月より開始した社会人（当大学卒業後教育）に対するリカレントオープンカンファレンス（第1～36回）について、紀要論文（第二弾）をまとめあげる 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>国家試験に繋がる内容を中心に、分かり易く理解しやすい授業にし、基本を伝え学生自身が興味を抱いて頂けるようなスライドや、動画をもちいた授業内容を目指す</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～36回のリカレントカンファレンス（現在第36回終了、92施設、計1293名、平均参加数36名）を実施した。紀要論文（第二弾）についても図書委員会から受諾（神戸常盤大学紀要頂いた【 Vol. 16. pp. 96-107. 2023 】） <p>3)社会的活動等</p> <p>社会人（本学卒業生）を対象に超音波検査を中心とした月に1回実施しているリカレントオープンカンファレンスの実施と認定超音波検査士免許取得者への準備援助を実施した</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・退職後も常盤大学卒業生の就職斡旋を微力ながら継続していきたい ・卒業生の認定超音波検査免許取得への準備援助を引き続き実施していきたい 					

個人年間活動報告書

教員名	杉山 育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員、国家試験対策委員、ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ、画像検査学、生理機能検査学ⅡB、生理機能検査学演習、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、臨床検査学演習、臨床検査学発展演習、検体採取安全管理演習、BLSキャリアパスⅠとⅡ、生理学と日常生活、人体のふしぎ、0科臨床検査学、R科診療画像検査学Ⅱ				
担当科目コマ数	12. 13				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・考えて行う臨床検査を学生に教育すること ・研究論文を纏めること 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・考えて行う臨床検査を学生に教育すること。 ・臨地実習委員・国家試験対策委員・ハラスメント防止対策委員の役割を遂行する。 ・研究時間の確保を考える 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査データと疾患を繋げて覚えるだけの学修方法では効果は少ない。そこで病態を考え、それから起こると推測される検査データを考えるという教育に重きを置いた。しかし、学生からは基礎力の生理学や解剖学が身につけていないので考えることが出来ないとの意見があった。今の学生は想像することをやってこなかったのか苦手のようなのである。臨床では教科書に載っていないことに遭遇する。その時に役立つのは、今までの知識を総合して考え出す力である。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>2022年2月と9月 臨地実習指導者講習会準備会議に参加</p> <p>2022年9月11日 第15回臨地実習指導者講習会の運営担当（世話人）を行った。</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・低学力の学生に、覚えることと考えることを明確に言葉にして、明記して指導すること。 ・研究論文を纏めること。 					

個人年間活動報告書

教員名	今西 麻樹子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員				
クラス担任		クラブ顧問	バドミントン部(副顧問) 弓道同好会(顧問)		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学ⅡB、 基礎検査学実習、生理機能検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、医療コミュニケーション、対人援助技術演習、 まなぶる▶ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	14. 27				
本年度の課題					
教 育：実習および授業内容の充実、新たに担当する授業科目の準備 研 究：研究活動の充実					
本年度の目標					
教 育：呼吸機能検査実習の実施と実習内での感染を防ぐ(実習) 担当科目の授業ノート、授業資料、小テストの作成(講義) 研 究：データ解析中の研究を論文化する					
主な活動内容					
1) 教育活動 サーキュレーターを使用しての室内換気や機器の消毒等の感染対策を講じ、前期「生理機能検査学実習Ⅱ」では学生相互での呼吸機能検査測定を実施した。しかし、昨年同様、感染リスク軽減のためグループ内の1人を被検者とした測定しかできず、検査技師および患者両方の立場での実習はできなかった。後期「生理機能検査学実習Ⅰ」では履修学生全員の呼吸機能検査実習を実施した。新たに担当した科目(講義)では、教科書を中心に、基礎知識、検査法、検査結果の解釈等の理解を目指した授業ノート・授業資料を作成し授業を行った。					
2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3) 社会的活動等 なし					
今後の課題					
教 育：実習および授業内容の充実、次年度新たに担当する授業科目の準備 研 究：研究活動の充実					

個人年間活動報告書

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員、地域交流センター委員、就職委員（副委員長）、国試対策委員				
クラス担任		クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、臨床検査学演習、臨床検査発展演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、 BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ、地域との協働B				
担当科目コマ数	15. 13				
本年度の課題					
自身に関わる正課（実習、講義）、地域交流、国試対策・就職支援において、また、学生委員として、学生が自主的に活動し、気持ちを表現できる環境をつくるよう心掛ける。 研究活動において、研究中のテーマを進める。					
本年度の目標					
教育活動：学生実習、国試対策と連携した就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマを継続する。					
主な活動内容・自己評価					
1) 教育活動 学生実習では、学生自身が考える環境を作るために、実験台単位で器具・試薬を管理するように指導した。また、理解の遅い学生には、予習課題・レポート（復習）についてマンツーマンで指導をした。 就職支援においては、BLSキャリアパスから就職支援（就職委員会）への繋ぎを考え、途切れのない支援を心掛けた。また、国試対策委員としてし、就職委員会との連携を図った。					
2) 研究活動 研究テーマ： 唾液の臨床検査について 研究の現状： 唾液中NGFと認知機能維持についての研究を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 兵庫県臨床検査技師会 理事					
今後の課題					
就職支援・国試対策・地域交流では、学生一人一人に合った指導を行う。また、学生実習・国試対策では、学生の学習の進捗状況を確認し、学生の学習の支援を行う。					

個人年間活動報告書

教員名	澤村 暢	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員(副委員長)、臨地実習委員、図書委員、紀要委員、自己点検評価委員、ライフサイエンスセンター委員				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部顧問		
担当科目名	血液学、血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、まなぶる▶ときわびとⅡ、検体採取安全管理演習、細胞培養演習、卒業研究、医学検査サプリメント演習Ⅰ・Ⅱ、総合医学検査特論、0科臨床検査学				
担当科目コマ数	11.00				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の推進 ・国家試験対策の課題抽出と見直し 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究データのまとめ、論文化 ・これまでのデータから何が分かって、何が分からないのかを明確にし、次の課題を抽出し解決案を練る。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>国家試験合格と4年前期の成績には相関があり、早期に危険な学生を抽出することが可能になった。今後、これらの学生に対しどのような指導を行っていくかが新たな課題として出てきた。下位学生の押上が国試合格率アップへとつながる。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>令和4年度兵庫県精度管理専門委員会委員、日本臨床検査学教育学会評議員</p> <p>6/24 尼崎小田高校での模擬授業、関西大学 非常勤講師(臨床検査学)</p> <p>2/12 臨地実習指導者講習会調整役</p>					
今後の課題					
<p>研究活動の推進</p> <p>新カリキュラム対応の技能修得到達度評価プログラムの構築</p>					

個人年間活動報告書

教員名	溝越 祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、教務委員、学内実習安全委員、遠隔授業サポートチーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	検査入門実習、遺伝子・染色体検査学実習、マナブル▶ときわびとⅠ、臨床検査総論、臨床検査学演習、文献講読、分子感染制御学演習、遺伝子工学演習、マナブル▶ときわびとⅡ、公衆衛生学				
担当科目コマ数	13.03				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・入学教育の充実・拡充を図り、高校時から学修習慣を身に着けるような取り組みの実施 ・研究活動の推進 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学術論文発表のためのデータを取得する。 ・新規担当科目の予習動画作成を含め、授業コンテンツを充実させる。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>1. 学科入学前教育のmanaba 課題コンテンツを作成し、採点も行うことで新入学生の科目への理解度を図る体制を整えた。manaba 小テストの採点にそぐわない問題形式があったため、来年度は今年の実践を踏まえ問題の出し方を微修正する予定である。</p> <p>2. 全学入学前教育の講師を務めた。本学科では講師を務める教員が固定化されているため、他の教員への活動内容の引継ぎを行い、複数の教員が担当できる体制を整えることが課題である。</p> <p>3. 新規担当科目である基礎分析実習の授業コンテンツを整えた。授業時間が超過するなどの課題があったため、来年度は時間の超過対策および学生への理解をあげるための、事前予習動画を作成する予定である。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>高校生への臨床検査技師職種の紹介による、臨床検査啓蒙活動を3回実施した。</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究への時間を捻出し、計画通りに研究を進める。 ・新規担当科目である免疫検査学実習の授業コンテンツの体制を整える。 ・入学前教育コンテンツをブラッシュアップする。 					

個人年間活動報告書

教員名	佐野 太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、地域交流センター、LS 細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、卒業研究委員、細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（顧問）		
担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病理検査学実習Ⅱ、臨床検査入門実習、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	14.80				
本年度の課題					
引き続き、国試対策、細胞検査士養成課程の試験対策をより充実させたい。また、学修面だけではなく、ボランティア活動についても学生が取り組みやすいように努めたい。					
本年度の目標					
1. 養成課程のオリジナルデジタルテキストの改訂 2. 国家試験、デジタル教材の開発					
主な活動内容					
1) 教育活動 病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学実習の準備、レポート、スケッチの指導に加え、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡの授業を担当					
2) 研究活動 研究テーマ：① File maker を用いた学習システムの構築 研究の現状：継続中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1編） 著書（ 2 冊）					
3) 社会的活動等 子宮頸がん検診啓発活動					
今後の課題					
1. 研究活動時間の確保。 2. 国試対策において、成績が伸びない学生への対応について検討する。					

個人年間活動報告書

教員名	松田 正文	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	診療放射線学科長、運営委員会委員、学長会議委員など				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医学概論、生理学、腫瘍学、生理機能検査学ⅡB、呼吸・循環機能検査学、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学Ⅲほか				
担当科目コマ数	8. 23				
本年度の課題					
診療放射線学科の円滑な運営。 学科教員の質・量両面での充実。 一期生の臨床実習対策。 二・三期生教育の充実。					
本年度の目標					
一期生の臨床実習を円滑に進める。 二・三期生教育を一層充実させる。 学科教員の教育環境・研究環境を整える（教員の質・量両面での充実）。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 個人として担当している授業とともに学科教育の全体にも目を配り、特に一期生の臨床実習に向けて学科全体が努力した。ほぼ目標を達成した。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 不整脈患者1名の心電図を間歇的・長期的に観察したが、研究としては不満足であった。					
3)社会的活動等 特別なものは無い					
今後の課題					
一期生国家試験受験者を全員合格させる。 引き続き診療放射線学科の円滑な運営に努め、学科教員の質・量両面での充実を計る。 学科教員の研究環境を整える。					

個人年間活動報告書

教員名	對間博之	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長補佐，研究倫理委員会委員長，ときわ教育推進機構，教務委員会，保護者のためのオープンキャンパス，臨床実習委員会，就職委員会，学生研究委員会，				
クラス担任	1年 学年主任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	核医学検査技術学Ⅰ，核医学検査技術学Ⅱ，医療安全管理学，放射化学Ⅰ，放射化学Ⅱ，放射線計測学実習，放射線安全管理学，放射線安全管理学実習，放射線科学概論，核医学検査機器学，核医学機能解析学，臨床実習，臨床基礎実習，診療画像技術学実習，診療放射線技術学概論，関係法規，I PW（多職種連携）論				
担当科目コマ数	15. 20				
本年度の課題					
4 学年が初めて揃う年度であるため，1 期生の学生研究や国家試験対策を確実に遂行する．また，完成年度後の学科体制を見据え，新カリキュラムの策定など教育活動に関する検討や人事も含めた学科の体制強化を進める．					
本年度の目標					
学生の GPA，模試の成績等のデータに基づく教育を実施する．特に 1 期生の卒業年度となるため国家試験および就職に関する成果を向上させる．					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <p>担当の講義，実習のほか学生の補習等を行った．また，臨床基礎実習（OSCE，CBT）や学生研究の体制を整えた．学外での教育活動として医療技術等国際展開推進事業に参画し，アジア地域の診療放射線技師の教育を実施した．</p> <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等</p> <p>日本放射線技術学会（業務執行理事，代議員，教育委員会委員長，放射線委員会委員，企画委員会委員，学術委員会委員，関東支部核医学研究会委員，総会学術大会実行委員会委員），日本核医学会（日中核医学交流会委員，経営戦略委員会委員），アジア核医学技術学会（監事），Asian Society of Nuclear Medicine Technology（Steering Committee 委員），日本核医学技術学会（理事，評議員，放射線防護管理小委員会委員，情報管理小委員会，広報・表彰委員長），日本核医学専門技師認定機構（監事）</p>					
今後の課題					
完成年度に向けて，カリキュラムの見直しを実施する．学生研究の実施計画について構築し，実施する．					

個人年間活動報告書

教員名	今井方丈	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会 委員, 入試委員会 合否判定部会 委員, R科就職委員会 委員長, R科臨床実習委員会委員, R科国家試験対策委員会委員				
クラス担任	3年責任者 (担任)	クラブ顧問			
担当科目名	基盤：大学道場miniゼミA R科：医用画像工学, 医用画像工学実習, 臨床技術入門, 画像診断学Ⅰ, 画像診断学Ⅱ, 医療安全管理学, 医療安全管理学実習, 臨床基礎実習, 臨床実習 M科：臨床検査学演習				
担当科目コマ数	1 2. 3 7				
本年度の課題					
3年生の新たな授業の準備, 実習要領の整備(実習器材の充実), 臨床基礎実習, 臨床実習への取り組み, 学科内運営の確立					
本年度の目標					
学生対応の充実 (特に学業不振者への対応 [補習])					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・ 高大連携の一環で, 授業を行った。 兵庫県教育委員会 兵庫県公立学校職員(兵庫県立福崎高等学校特別非常勤講師) ・ 補習による正課外授業 ([前期] 放射線写真学1コマ, 医用画像工学1コマ, [後期] 画像工学2コマ)					
2) 研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表 (回) 論文 (編) 著書 (冊)					
3) 社会的活動等 ①講演 2022年9月17日(土) 10:05~11:05 第38回 日本診療放射線技師学術大会 HART 企画 教育講演② 『診療放射線技師教育制度の変遷と大学教育の現状』 参考： https://web.apollon.nta.co.jp/38jcrt/files/38program.pdf ②講演 2022年11月23日(水) ~2023年1月15日(日) 動画配信 全国視能訓練士学校協会 第15回教員研修会 シンポジウム 「これからの看護師・理学療法士・診療放射線技師					

(教育と職能について)」 講演タイトル「診療放射線技師教育と職能 ―業務拡大への対応―」
シンポジウム討論会 リアルタイム開催 2022年12月25日(日) 10:00~11:00 参考： https://shinsen-mc.co.jp/omeme2022/program.html
今後の課題
学内実習環境(器材等)の充実 学業不振者への対応

個人年間活動報告書

教員名	谷口英明	所属学科等	診療放射線学科	職名	特任教授
委嘱委員・職務	広報委員会、委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	コミュニケーション論、医療コミュニケーション、芸術文化論、プレゼンテーション技法				
担当科目コマ数	4. 97				
本年度の課題					
授業での学生への接し方、各授業の進め方、あるいは方法論で改善すべき点を改めて臨むこと。授業以外の学習が少なすぎた点については今年度もあまり改善されず反省点であり、来年度に向けて改善するための方法を工夫しなければならない。					
本年度の目標					
1、授業で学生への接し方について 学生との対話を増やし、傾聴力や伝える力を鍛える。 2、授業の方法論 なるべく発言の機会を増やし、グループでのディスカッションを活発に行う。 授業は楽しく、明るく、興味深く。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 週1の頻度でサンテレビ、アナウンススクールにおいてアナウンサーを目指す学生に、アナウンススキルや採用試験対策などを指導。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ・マスコミ出演」参照					
3)社会的活動等 阪神タイガース「アーカイブプロジェクト」において、レジェンドOB数人に永久保存版ロングインタビュー、今後も継続。講演、著名人とのトークショーなど。					

今後の課題
新年度コミュニケーション論については、定期試験を行わないことにした。授業における発表やレポート提出、授業態度などがすべての判断となるため、学生への周知や、さらなる授業にたいする興味深い取り組み方をさせる工夫が大切になる。

個人年間活動報告書

教員名	山崎麻由美	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会（副委員長）、ときわ教育推進機構、図書委員会				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	英語コミュニケーションI（診療放射線学科、口腔保健学科、看護学科）、英語コミュニケーションII（医療検査学科、口腔保健学科科）、医療英語（医療検査学科）、医療英語（診療放射線学科）、大学道場miniゼミA				
担当科目コマ数	13.90				
本年度の課題					
①manaba を今以上に用いて、学生の課外学習時間を増やす工夫をすることと、授業を活性化させること。 ②日本における「看護師」のイメージ変容を比較研究する。					
本年度の目標					
①manaba を活用して学生が必ず取り組む課題を作り、その効果を授業中に測るようにする。グループワークなどで、学生がお互いに協力し合いながら取り組める課題を組み込む ②明治時代から大正時代にかけての看護婦がどのようにメディアに取り上げられているかを調べる。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 ①manabaを用いて、事前学習教材を配布し、授業中に効果を測るという流れを作り、このことにより学生の授業外学習時間が増えた。また英語でのグループプレゼンテーションを行うことで、学生が協力しながら発表できる機会を作った。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等					

今後の課題
①学生の課外学習時間はまだ不十分なので、さらに増やす工夫をすること。 ②日本で看護師像がメディアなどでどのように描かれてきたかをその時代の実態と比較しながら引き続き調査研究する。

個人年間活動報告書

教員名	高久圭二	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	放射線安全委員会委員長、紀要委員。教育研究推進センター				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	天文同好会、 ベクレル同好会		
担当科目名	放射線科学概論、放射線物理学II、放射線計測学、暮らしの中の物理学、物理学、放射線安全管理学、関係法規、miniゼミA、放射線安全管理学実習、放射線物理学I、miniゼミB、放射線計測学実習				
担当科目コマ数	16.93				
本年度の課題					
新しい授業の充実(卒業研究、メディカルデータサイエンス、診療放射線技術学総合演習、科学技術論)、放射線取扱主任者試験合格者倍増、特許取得、国試合格者サポート					
本年度の目標					
本大学の学生に適した授業の確立(卒業研究、メディカルデータサイエンス、診療放射線技術学総合演習、科学技術論)、放射線取扱主任者試験合格者倍増、特許取得、国試合格者サポート					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 放射線取扱主任者試験対策講座(第一種3年生2名、2年生2名、第一種3年生2名合格)					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 特許申請中					
3)社会的活動等 福島県浜通り研修実行委員					
今後の課題					
本大学の学生に適した授業の充実、放射線取扱主任者試験合格者倍増、特許取得、国試合格者サポート					

個人年間活動報告書

教員名	南 利明	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生委員会委員長 臨床実習委員会委員長 就職委員会副委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	放射線治療物理学 放射線治療機器学 放射線治療技術学Ⅰ 放射線治療技術学Ⅱ 医療安全管理学 医療安全管理学実習 放射線計測学実習 放射線計測学 放射線治療計測学 まなぶるⅠ 放射線安全管理学 放射線技術概論 IPW論 臨床基礎実習				
担当科目コマ数	1 2. 4 3				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動：授業準備は想定を上回る担当授業である。もちろん本年度の授業に向けてブラッシュアップも必要。 ・研究活動：高エネルギー放射線機器環境整備の希望が一瞬見えたが、残念ながら現在消失状態。新たな研究テーマの模索も含め再出発。 					
本年度の目標					
前年度業務のブラッシュアップと、新規事案を着実に実行することが大きな目標。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>担当する授業（講義、学内実習、臨床実習）の準備、教育材料の調査と準備。 教育科目の情報収集（学会、研究会、研修会など）</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：高エネルギー放射線の照射技術と計測技術および治療計画技術 研究の現状：研究環境の変化に対応するため模索</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p>					
今後の課題					
<p>1) 教育活動：今後開始される授業の準備と現状の授業のブラッシュアップ。</p> <p>2) 研究活動：今の研究テーマ継続のための環境整備と新たなテーマ検討</p>					

個人年間活動報告書

教員名	関 雅幸	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員、個人情報保護委員会委員、危機管理（災害）委員会委員、自己点検・評価委員会委員、診療放射線学科国家試験対策委員会委員、情報インフラ整備ユニット委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	〔診療放射線学科〕 医用工学Ⅰ（電気工学）、医用工学Ⅱ（電子工学）、医用工学実習、臨床基礎実習〔医療検査学科〕 情報科学概論、医療工学、医療工学実習（2年、1年）、ロボティクス演習、総合医学検査演習、総合医学検査特論〔基盤教育分野〕 プログラミング入門				
担当科目コマ数	15. 33				
本年度の課題					
業務に関連したシステムの開発					
本年度の目標					
診療放射線技師国家試験問題を国試対策に活用するためのシステムを作成する。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>研究活動にも関連するが、診療放射線技師国家試験問題を以前作成したものと合わせて、10年分をTeXファイルにすることができ、その過程で、TeXファイル作成を効率化するためのプログラムを改良していった。また、TeXファイル作成の際によく使うコマンドをまとめたチートシートを作成した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p>					
今後の課題					
担当業務のマニュアルを整備する。					

個人年間活動報告書

教員名	伊藤 彰	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員, 広報委員会副委員長, 国家試験対策委員会副委員長, 臨床実習委員, 情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	天文同好会(副顧問)		
担当科目名	診療放射線技術学入門, まなぶる▶ときわびとI, 医用画像工学実習, 医療情報学, 医療安全管理学, 画像解剖学, 情報メディア演習, まなぶる▶ときわびとII, 地域との協働B, 診療画像検査学I(MR), 臨床技術入門, 臨床検査学演習(M科)				
担当科目コマ数	14. 37				
本年度の課題					
担当講義のライブラリ化を図る。					
本年度の目標					
講義スライドを印刷して hand out として配布しているが、「診療放射線技術学 I(MR)」は動画を多数使用している。講義のホームページを開設し、PowerPoint のスライドを配布し復習の便宜を計る。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年に引き続き学生の考える力を育てるべく、毎回、授業内容を要約する課題を課した。課題は添削して返却した。 ● 「診療放射線技術学I(MR)」について、講義スライドを配布するホームページを開設し、配布を実施した。 					
2)研究活動					
「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等					
<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸市消防局より「応急手当普及員(救急インストラクター)」の認定を得た(2022/3/4付 昨年度報告記録の記入漏れ) ● 公開講演「脱・ベンダーまかせのシステム管理～ネットワーク編～「院内LAN、ここまで知っていれば大丈夫」」(KGMIIS 第2回京滋医用画像情報システム研究会)を実施した ● 厚生労働大臣の指定する「令和3年厚生労働省告示第273号研修」を修了した。 					
今後の課題					
要約課題等学生へのフィードバックについて、紙ベースに加え ICT 活用を検討する。					

個人年間活動報告書

教員名	木村英理	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員 R科臨床実習委員会（副委員長） R科国試対策委員会（委員長）				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	ベクレル同好会		
担当科目名	<ul style="list-style-type: none"> ・ X線撮影技術学Ⅲ（CT） 科目責任者 ・ 救急医学概論 科目責任者 ・ 画像診断機器学実習Ⅰ 科目責任者 ・ 画像診断機器学実習Ⅱ 科目責任者 ・ 医療安全管理学 ・ 診療放射線技術学概論 ・ 放射線計測学実習 ・ 臨床技術入門 ・ 臨床基礎実習 ・ 臨床実習 				
担当科目コマ数	15. 17				
本年度の課題					
・ R科の授業や実習が適切に行われているか					
本年度の目標					
・ R科の授業や実習を見直し、改善する					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：医療被ばくにおけるリスクコミュニケーション</p> <p>研究の現状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本放射線技術学会放射線防護委員会委員として活動 ・ 来年度のリスクコミュニケーションセミナー、秋季学術大会での部会専門講座などの企画を担当 <p>本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照</p> <p>学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <p>日本放射線技術学会 専門部会 放射線防護委員会委員</p> <p>日本診療放射線学教育学会 理事</p> <p>第78回日本放射線技術学会総会・学術大会 教育講演</p> <p>「医療被ばくにおけるリスクコミュニケーション」</p> <p>第50回日本放射線技術学会秋季学術大会 シンポジウム</p>					

「チームで行うリスクコミュニケーション」 企画・座長 兵庫県診療放射線技師会主催市民公開講座 講師
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ R 科の授業や実習が適切に行われているか見直しを行い、改善する ・ 学習効果の高い授業が提供できるようスキルアップを行う ・ 医療被ばくにおける効果的なリスクコミュニケーションについて、心理学的要素を含めながらアプローチをする ・ 業務に追われ大学院の単位が思ったよりも取れない。集中して取り組める環境と時間の確保

個人年間活動報告書

教員名	倉本 卓	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	研究倫理委員会委員，教務委員会委員，すこラボ（健康生活研究所）委員，学科国家試験対策委員会委員，学科臨床実習委員会委員，学科学生研究委員会				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	診療放射線技術学概論，X線撮影技術学Ⅰ（一般撮影），X線撮影技術学Ⅱ（透視・造影検査），画像解剖学，画像解剖学演習，医療安全管理学，診療画像技術学実習，医療安全管理学実習，IPW（多職種連携）論，臨床基礎実習，臨床実習				
担当科目コマ数	11.73				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した質の講義の実施 ・ 継続した研究活動の実施 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の GPA および授業アンケート結果等のデータに基づく教育の実施 ・ 外部機関との共同研究の実施 					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当科目の講義，および必要に応じた補習実施. ・ 科目責任者と勤める実習科目で，全実習項目をまとめた実習書の作成. ・ 学生会員として日本放射線技術学会への入会案内. ・ 学生に対して学術論文の抄読会，英文読解講義の実施. 					
2)研究活動 <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 学会発表（4回） 論文（4編） 著書（0冊）</p>					

<p>3)社会的活動等</p> <p>委員会活動：日本放射線技術学会 総務委員会 委員，日本放射線技術学会 総務委員会総会運営小委員会 委員，日本放射線技術学会 企画委員会ポイント制度導入検討班，九州医用画像コミュニティ 世話人</p>
<p>今後の課題</p> <p>診療放射線学科は4年目を迎え，初の国家試験対策が始まる．データと傾向を加味した対策を実施する．また，その中で得た気づきを自身が担当する2，3年次の科目の中に織り込み，学生の理解度向上を図る．</p>

個人年間活動報告書

教員名	桂千広	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生会、ハラスメント防止対策委員会、国試対策委員会、臨床実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	放射線生物学Ⅰ・Ⅱ、放射線科学概論、診療画像技術学実習、医療安全管理学実習、臨床基礎実習				
担当科目コマ数	11.87				
本年度の課題					
個別補習に代わる成績不良者への対応を再検討する必要がある。また、研究面では策定したテーマに基づいて研究を開始する					
本年度の目標					
放射線生物学の講義内容の見直し。 研究の開始。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>成績不良者を対象に放射線生物学Ⅰの補習を1時限実施した。 放射線取扱主任者試験の受験希望者に対して放射線生物学の対策講義を実施した。 放射線生物学の講義資料の見直しや適宜小テストを実施することで、学生全体の成績向上に努めた。 体調が安定せず、学生個別への対応は不十分であった。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p>					

今後の課題
体調の自己管理を行う。個別補習に代わる成績不良者への対応を再検討する必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	長谷川 大輔	所属学科等	診療放射線学科	職名	助教
委嘱委員・職務	地域交流センターA、国際交流センター、就職委員会				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、放射化学Ⅰ、核医学検査機器学、核医学機能解析学、関係法規、放射線安全管理学実習、診療画像技術学実習、国際理解、臨床実習、臨床基礎実習				
担当科目コマ数	16. 33				
本年度の課題					
1年目ということもあり、大学に慣れること、教員の基本的な業務を身につけること、そして研究活動を行うことを目標としていた。放射化学Ⅰでは総合評価が4.7と非常に高く、学生からの意見も良好であった。講義資料作成の準備期間が少なく、理想的な内容ではなかったため、次年度はよりブラッシュアップしたい。研究活動は講演を4回も実施した。論文投稿までは至らなかったものの、初年度において十分な業績を残せたと思われる。					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ① R科初となる国際保健医療活動Ⅱを無事に完遂させること。 ② 国家試験合格率100%に向けて、学生個々に応じたきめ細やかな対応を行うこと。 ③ 論文を1本 submit すること。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>担当科目に加え、第一種放射線取扱主任者試験対策、企業就職を希望する学生に対してのITパスポートの学習指導および面接指導など、診療放射線技師だけでなく、外資系企業経験者としての教育活動を行った。また、国際保健医療活動Ⅱでは、R科初のタイの研修先病院との業務締結に至った。自身の強みを活かした活動が実施できたと思われる。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>神戸ときわフェスタにおいてR科の責任者を担当し、「診療放射線技師とは」「乳がんを知ろう」の2つの企画を実施し、地域の方々への診療放射線学科のプレゼンスを示した。また、国際交流センターでは、ネパールとのオンライン交流会においてR科の学生3名に英語プレゼンテーションの指導を行い、ネパールの学生や参加された留学生たちとの交流を深めた。</p>					
今後の課題					

<ul style="list-style-type: none"> ・講義の質をあげること：プレゼンテーション資料のブラッシュアップ ・学内業務のデジタル化促進：アナログ運用などが多く生産性が低い。少しずつデジタル化を実施していきたい。 ・本学には核医学装置がないので、近隣施設に研究協力施設をつくり、卒業研究および自身の研究活動を行いやすい環境づくりが必要である。

個人年間活動報告書

教員名	市川 尚	所属学科等	診療放射線学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員，地域交流センター，国家試験対策委員，SD委員，臨地実習委員，遠隔授業サポートチーム				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる▶ときわびとⅠ，情報基礎，画像診断機器学実習Ⅱ，画像解剖学演習，医療安全管理学，まなぶる▶ときわびとⅡ，放射線計測学実習，画像診断機器学実習Ⅰ，臨床実習，臨床基礎実習				
担当科目コマ数	15.93				
本年度の課題					
<p>学生に対する分かりやすい授業の展開，業務と研究の両立が本年度の課題であった。よって本年度は学生に積極的に授業の感想や要望を聞くことを意識した。</p> <p>しかし，学生の声を反映させた授業を展開するところまでは対応できなかった。</p> <p>また，今年度の課題であった業務と研究の両立について，論文の submit や学会発表はできたが，より忙しくなる来年度に研究時間を捻出する工夫が必要となる。</p>					
本年度の目標					
<p>①学生の声を反映させた分かりやすい授業の展開 →情報基礎の学生評価値が平均以上になることを目標とする。</p> <p>②海外論文1本を accept させる →そのために2本以上の論文を submit する事を目標とする。</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動 第一種放射線取扱主任者試験対策，X線を活用した学生実習，「まなぶる」を通じたチームビルディング教育，情報基礎を通じた診療放射線技師に必要なデータ解析教育を実施した。また，神戸女子高の生徒に対し，X線で骨の写真が撮影できる原理について，実際の機器を用いながら解説した。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 学会発表（3回） 論文（2編） 著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等 福島スタディツアーの引率教員を務め，地域の方々との親睦を深めると共に，原発事故の現状やそれに伴う放射線被ばくについて学生と理解を深めた。</p>					

今後の課題
学生からの授業に対する要望を取り入れた授業を展開し、授業の質をブラッシュアップさせることが今後の課題である。また、論文を1本 accept させるために、複数本の論文を submit することが必要である。よって、研究時間を確保するために工夫する事が今後の課題である。

個人年間活動報告書

教員名	北川薫	所属学科等	診療放射線学科	職名	助教
委嘱委員・職務	FAST等企画運営ユニット, 臨地実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	[基盤教育分野]まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ [診療放射線学科]X線撮影技術学Ⅰ、診療画像技術学実習、画像診断機器学実習Ⅱ、画像解剖学、医療安全管理学、画像診断機器学実習Ⅰ、医療安全管理学実習、臨床基礎実習				
担当科目コマ数	16.00				
本年度の課題					
本年度の目標					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 画像診断機器学実習Ⅰ・Ⅱや医療安全管理学, 医療安全管理学実習などのオムニバス科目について実習や講義を行なった。画像診断機器学実習Ⅰにおいては, 授業アンケートにて学生の理解を深められたことがわかった。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 健康フェスタや公開講座では乳がんに関するテーマを行なった。					
今後の課題					

個人年間活動報告書

教員名	吉田幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、学園一体化推進協議会委員、運営委員会委員、学長会議委員 合否判定部会委員、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生士論Ⅰ、学びの基礎、早期臨地実習、健康スポーツ科学Ⅰ、 全身の健康と口腔科学、栄養指導法、歯科予防処置演習BⅡ、歯科衛生 過程演習、歯科医療と法律・制度、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特論Ⅱ こどもの歯と健康 (E科)				
担当科目コマ数	7. 37				
本年度の課題					
1. 定員を充足する入学者数を確保する。					
本年度の目標					
1. オープンキャンパス、入試ガイダンス、大学説明会等の入試広報活動に積極的に取り 組む。 2. 4年制教育課程の円滑な進行を推進する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・入試広報活動に注力したが、70名の入学定員を満たすことが出来なかった。 ・4年制教育課程の円滑な進行のために学科教授会13回、学科会議12回、臨地実習説明 会2回を開催し、授業内容及び臨床実習内容について教員（専任及び非常勤）間で情報 共有をおこなった。 ・本年度は歯科診療所をリニューアルし一般歯科診療が実施できる施設とした。この事 で他校にはない教育である学内歯科診療所における臨地実習が可能となった。また、専 任教員が臨地実習も指導できる事になり、本学の教育に付加価値がついたと考える。					
2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」および「リサーチマップ」参照					
3) 社会的活動等					
① 日本歯科衛生学会会長 「第17回日本歯科衛生学会学術大会」のシンポジウムにおいて座長を務めた					
② 日本健康体力栄養学会副会長 「第30回日本健康体力栄養学会大会」の大会長を務めた					
③ 日本口腔ケア学会評議員					
④ 日本栄養・食糧学会近畿支部参与					
今後の課題					
1. 定員を充足する入学者数を確保する。 2. 4年制教育におけるワークキャリアデザイン科目の充実を図る。					

個人年間活動報告書

教員名	八木孝和	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書館長（図書紀要委員長）、口腔保健研究センター委員長、口腔保健学科就職委員長				
クラス担任	1年生主任	クラブ顧問			
担当科目名	人体の構造と機能、臨床歯科Ⅴ（矯正歯科学）、健康科学総論、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅰ、口腔保健特論Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅰ、大学道場miniゼミ、放射線治療学Ⅰ、健康と運動、IPW論				
担当科目コマ数	5. 80				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年制教育2年目を迎え、新規授業の体系化 2. 歯科診療所の潤滑な運営のための自身の役割の明確化 3. 基盤研究等の研究面を強化 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療所の整備・充実化 2. 4大教育に合わせた授業内容の見直し 3. 担当しているセンター・委員会の各活動のさらなる活性化 4. 科研費等の基盤研究の立ち上げと継続研究の整理・学術的な報告 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動：新型コロナウイルスの影響下、対面授業を中心にICT活用による予習・復習教材を整備した。</p> <p>2)研究活動：研究代表の新規研究や共同研究を行っている項目を中心に、学科全体でできる研究や企業との連携などを行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 9回） 論文（ 3編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>①歯科健診（神戸常盤女子高、神戸常盤大学附属幼稚園、神戸常盤大学短期大学部、立花うるま保育園）を実施。</p> <p>②神戸市救急インストラクターとして駒ヶ林中学校と本学の大学1年生、口腔保健学科3年生に対して救急救命に関する講習会の指導員を行った。</p> <p>③日本顎口腔機能学会評議員、全国大学衛生士教育協議会理事、日本歯科医学教育学会代議員</p> <p>④査読17編（紀要1、海外雑誌10、国内英文誌6）</p> <p>⑤高校ガイダンス1（兵庫県立御影高校）</p> <p>⑥KIT、モトロクでの歯の相談会</p> <p>⑦兵庫県歯科衛生士会「卒後研修必修プログラムスペシャリストコースⅢ―2」の講師を担当した。</p> <p>⑧滋賀県立総合保健専門学校にて2年生対象に歯科薬理学の講師を担当。</p>					

今後の課題
<p>1. 歯科診療所を介した取り組みとして、患者接遇や医療安全、日常臨床などを活用した研究活動をどのように構築するかが研究的には大きな課題である。</p> <p>2. 日常の教育業務、歯科診療所の運営面との兼ね合いで科学研究に割ける時間が少なく、バランスが取れていないのが実情である。</p> <p>3. 上記の結果、研究面で集中的に避ける時間がなく、滞ることが多い。</p> <p>4. 担当するセンターや委員会などは以前より活発に活動できる体制を整えてきたが、それぞれの委員会を出てきた課題を整理し、各活動を充実させていくことと、各委員会活動を通じて、新しい研究テーマを学科の先生方と検討していく必要がある。</p>

個人年間活動報告書

教員名	高橋由希子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員、すこラボ副センター長、口腔保健学科臨地実習委員長				
クラス担任	口腔保健学科1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	科目責任者：歯科予防処置論（8）災害援助と救急救命（8） 災害時の歯科衛生士の働き（15×2）歯科予防処置演習BⅡ（15×2） 臨地実習：地域歯科保健実習Ⅰ・総合歯科実習（どちらも3単位）				
担当科目コマ数	15.73				
本年度の課題（2023年度）					
<p>教育活動：現状維持、課題は特記事項なし。</p> <p>研究活動：データ解析および論文作成可能なものは早急に完成を目指す。また、研究の発想転換のため、学会参加を行う。</p> <p>社会的活動等：多文化共生支援に関連するルール作りが未作成である。</p> <p>歯科診療所開設のため、患者確保を課題としていたが、患者数が伸び悩んでいる。今年度より副責任者となったため、学内もしくは地域住民へのアピール方法を立案する必要がある。安定した歯科診療所の運営を行うことは、学生の臨地実習教育にもつながるため、どのようにしたら患者増となるのかが近々の課題である。</p> <p>入試委員会：口腔保健学科入学者定員充足。</p>					
本年度の目標（2023年度）					
<p>教育活動：4年間のカリキュラムの完成に向け、講義実習内容を改良する。</p> <p>研究活動：現状までの多文化共生支援に関連するデータの解析を行い、今後のアプローチを考える。</p> <p>社会的活動等：多文化共生支援に関連するルール作りに着手する。</p> <p>歯科診療所の患者確保のため、学内もしくは地域住民へのアピール方法を立案する。</p> <p>学内の活動：①入試広報課と連携し、高校訪問等を積極的に行う。 ②将来的にIPWを見据えたすこラボ講座のマネジメントを行う。</p>					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					

遠隔講義資料は、繰り返し学習の黄河があるため、演習前後の予習復習資料として使用した。
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
3)社会的活動等 多文化共生に関連する地域住民への支援（継続） 令和4年3月に台湾高齢産業创新发展協会主催「日本の歯科衛生士の役割」講師およびシンポジストを行った。
4)臨床業務 1-2日/週診療業務を行った。診療所開設によって時間が取られることとなったが、臨床と並行して教育をすることは、歯科衛生士職として不可欠だと考える。
今後の課題（2024年度？）
本年度の課題は継続的な今後の課題と考える。

個人年間活動報告書

教員名	破魔 幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会委員, 危機管理委員会委員, 国家試験対策委員会委員, 臨地実習委員会委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論, 歯科予防処置演習BII（歯周病）, 歯科予防処置演習I, 歯科予防処置演習AII（う蝕）, 口腔保健衛生学実習I, 口腔保健特論II, 学びの基礎				
担当科目コマ数	10.07				
本年度の課題					
【教育】キャリア教育のエッセンスを演習のなかに取り入れる工夫を施す。 【研究】学生支援に繋がる分析手法の再考が必要であり、多くを試す機会を作る。 【地域貢献】自分の役割をみつめ、歯科衛生士として活動する。					
本年度の目標					
【教育】演習においてもキャリア教育に基づく講義内容をおこない、学生が実践できる学修環境を整備する。 【研究】分析手法を広げることで学生支援に繋げる道筋を見出せるようにする。 【地域貢献】社会貢献を根本に研究や地域活動を広げ、歯科衛生士として活動する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 対面授業では知識のリフレインと実習を組み合わせ実施した。臨地実習は、manabaプロジェクトを活用したグループカンファレンスなどアクティブラーニングに役立てることができた。					

2) 研究活動 研究テーマ：教育心理学（自己肯定感），社会系歯学（歯科健診），臨床心理学（親子の愛着）（自己肯定感） 研究の現状：学会発表あり 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（4回） 論文（0編） 著書（0冊）
3) 社会的活動等 兵庫県歯科衛生士会 基礎研修理事
今後の課題
【教育】キャリア教育のエッセンスを演習のなかに取り入れる工夫を施す。 【研究】学生支援に繋がる研究計画をの再考のため，文献研究をやり直す。 【地域貢献】自分の歯科衛生士としての役割として社会的活動をする。

個人年間活動報告書

教員名	中村 美紀	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員会、地域交流センター、臨地実習委員会、国試対策委員会、就職委員会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	子ども学、子どもの歯科学、歯科診療の診療補助、機能再建系診療補助演習、早期臨地実習、口腔保健衛生学実習Ⅱ、学びの基礎、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特論Ⅱ、地域と協同B、				
担当科目コマ数	11. 97				
本年度の課題					
1. コロナ禍後の臨地実習実習の実施 2. 研究活動を活性化し、進捗させる。 3. 地域貢献活動の拡大。					
本年度の目標					
1. コロナ禍において様々な制約があった臨地実習であるが、引き続き、徹底した感染対策を実施しつつ、より臨床的な実習を実施できるよう配慮する。 2. コロナ禍により中断していた調査活動を再開し、データを集積する。 3. 地域のニーズに合わせた地域貢献活動を企画し、実施する。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 本学以外での活動なし					
2)研究活動 研究テーマ：「お口ぼかんが幼児の成長発達に与える影響」 「小児白血病患者の口腔有害事象発症頻度（発症率）」 研究の現状：（上段）科研費採択、データ集積					

<p>(下段) 論文執筆中 学会発表 (11回) 論文 (0編) 著書 (0冊)</p> <p>3)社会的活動等 神戸市地域拠点型一般介護予防事業はすいけ予防介護講座 講師</p>
<p>今後の課題</p> <p>1. 研究成果の発表 (論文化) 2. 今年度より開講される4年制大学の授業を充実させる</p>

個人年間活動報告書

教員名	水村容子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員、国際交流委員、国家試験対策委員、就職委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	学びの基礎、予防処置演習AⅡ・BⅡ、歯科予防処置演習Ⅰ、診療補助実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅰ、総合歯科実習、地域口腔保健保健支援実習Ⅰ、災害時の歯科衛生士の働き、口腔保健特論Ⅱ、国際理解				
担当科目コマ数	11. 27				
本年度の課題					
4年制の学生が入学し、カリキュラムも変更になるので、短大としっかりと区別をしながら講義、実習を実施していく					
本年度の目標					
短大と4年制大学とを混同しない様に、カリキュラムの変更をしっかりと意識し、実施する。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動 4年制の学生のカリキュラムに沿って、演習を行う事が出来た。しかし、実際に行ってみて改善すべき点も見えてきたので、来年度以降は、改善点を活かして演習に臨みたい。また、本年度より開講された国際理解については、本年度実施の状況を鑑み、来年度の実施方法についてワーキンググループで改善をした。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等 国際保健室の活動が、年度末に集中して行われた。</p>					

<p>コロナ禍が落ち着いてきているので、来年度はさらに活発になることが予想される。そのため、再度、実施方法等について検討する必要があると考える。</p>
<p>今後の課題</p>
<p>本年度の改善点を把握し、来年度以降の講義、演習のブラッシュアップにつなげられるようにしていく。 また、研究については、どのように実施していくのかを、再検討し実現させていく。</p>

個人年間活動報告書

教員名	西保 亜希	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、臨地実習委員、国家試験対策委員				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学、栄養指導法、学びの基礎、早期臨地実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、病原微生物学・免疫学、生化学・栄養学、歯科予防処置演習Ⅰ、歯科理工学演習Ⅰ、災害時の歯科衛生士の働き、口腔保健特論Ⅰ、総合歯科実習				
担当科目コマ数	10. 17				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育とのバランスを考慮しながら、研究遂行に努める。 ・積極的な研究成果発表を行う。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育と研究それぞれのエフォートを設定して実行に移す。 ・科研費獲得課題および共同研究の成果をまとめ、学術論文として2報以上公表する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>基盤教育科目や演習科目では、感染対策を十分に講じた上で、学生が主体的に取り組めるよう視覚教材を多く使用して実施した。講義科目では、復習に使用できる資料や動画をWeb上で随時確認できるようにしたことで、学生の理解向上に繋がった。</p>					
<p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p>					
<p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援施設KIT、ときわんモトログ、ときわんノエスタにおいて毎月2回「歯っぴー相談会」を開催し、数多くの歯科健康相談に対応した。 ・学内歯科診療所において、歯科衛生士として診療補助や予防処置に従事した。 ・近隣幼稚園の歯科健康診断に歯科衛生士として参加し、アシスタント業務に従事した。 					

今後の課題

- ・継続的な研究成果報告を行い、業績の向上に努める.

個人年間活動報告書

教員名	塩谷英之	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	すこラボ所長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護解剖生理学Ⅱ、症候論Ⅰ、チーム医療論、看護病理・病態学、いのちと共生、人体のふしぎ、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学Ⅲ				
担当科目コマ数	7. 37				
<p>本年度の課題令和4年は基盤研究B令和2年-4年「2週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究の最終年度であるため、本研究を完了し、その内容を一流論文に投稿しさらに研究結果を学会等で発信する。</p>					
<p>本年度の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（基盤研究B 令和2年-4年）「2週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究を完了すること ・すこラボにおいてフレイルをテーマに本学の4学科が協働して情報発信を行うこと。 					
<p>主な活動内容</p>					
<p>1) 教育活動</p> <p>コロナ渦の影響も薄れ、対面授業が中心となったが、独自で作成したパワポ動画を活用するなどして理解の向上に努めた。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：健康維持における生活リズムの重要性について</p> <p>研究の現状：</p> <p>基盤研究B 令和2年-4年「2週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究を無事完了し、それに関係する発表ならびに論文投稿も行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照</p> <p>学会発表（ 1回） 論文（ 2編） 著書（ 冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県国民健康保険団体連合会データヘルス評価・支援委員会委員長 ・全国健康保険協会兵庫支部健康づくり推進協議会委員 					
<p>今後の課題</p> <p>令和5年4月より始まる神戸大学との共同研究（基盤研究B 令和5年-7年）「夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムと睡眠深度」を行い、生活リズムの重要性について新たな知見を蓄積していく。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	尾崎 雅子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、ときわ教育推進機構				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、基本看護技術Ⅰ・Ⅳ、医療・看護特論、看護学研究 看護活動基礎実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習（看護過程） 課題別総合実習、いのちと共生（基盤）、臨床技術入門（R科） I PW論（R科）				
担当科目コマ数	20.47				
本年度の課題					
教育活動については担当する授業科目について、講義形態であると一方向的になってしまいがちである。また基本Ⅳ（看護過程）では思考のプロセスを学ぶが、学修（思考）というよりパターン化したことを習うようになっていることが課題である。					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学修意欲を喚起させるような工夫（ノートの活用、発問・課題、個別指導など）をして、学生自らが主体的に学べるような授業を行う。 ・研究活動については学生の情意領域の変化について、前年度までにデータ収集した内容は公表できるようにする。またテーマ別の卒業生のリカレント教育のニーズ調査については論文にして紀要など公表に向けて活動する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>「看護学概論」は2年目になるが、前年度の内容を引き継ぎ実施した。学生による授業評価はⅠ4.1,Ⅱ4.5,Ⅲ4.6,Ⅳ4.5,Ⅴ4.6と学科平均と同様の結果であった。毎回の授業後の反応からは看護への興味・関心をもち、自分で調べたことや質問を出してくる学生もいた。全体で共有できるように授業の始めに前回の復習と質問への解説意見の紹介を行った。またできるだけ具体例を示しながら進めた。更に8月の臨地実習へとつながるような投げかけを行うことで、学ぶことへの意欲になったと考える。学習習慣を付けるためノート作成をしてもらったが、発問の機会は十分ではなかった。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>高大連携：兵庫県立福崎高校「チーム医療」第1回目授業担当</p>					
今後の課題					
<p>教育活動・研究活動については引き続き活動する。</p> <p>本年度は4月に急遽学科長代行を拝命し、立場が変わったことから目標への取り組みが十分でなかった。自己の役割を見直し、遂行できるようにしたい。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	岩越 美恵	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教職支援センター委員、看護学科養護教諭課程委員長、ストレスチェック実施者				
クラス担任	クラス担任	なし	クラブ顧問	なし	
担当科目名	健康科学総論、症候論Ⅱ、養護概説、特別支援教育(N・E)、養護実習Ⅰ・Ⅱ、養護実習指導、教職実践演習、人体のふしぎ、MiniゼミB、看護学研究、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学Ⅲ、健康スポーツ科学Ⅰ、生命と倫理				
担当科目コマ数	7. 8 7				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究の症例のまとめ 2) ICF（国際生活機能分類）と地域共生社会創生の立場から新しい障害児者の療育・福祉のモデルを考える（次の実践に繋ぐ）。 3) 看護師養成課程の新カリキュラムの科目「地域活動基礎実習」への参画によって、障害児者看護の充実を図る。 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝性痙性対麻痺 SPG3A タイプ^oの ATLL1 遺伝子の新規変異症例の報告 その他症例の集積 2), 3) 上記課題に示す 					
主な活動内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育活動 対面授業の良さと遠隔授業の良さを組み合わせて授業を行うことができた。 2023年度新カリキュラムの科目「地域活動基礎実習」への参画は、担当者の計画が遅れ、後奏が不明確で、参画できなかった。 2) 研究活動 「令和5年度研究計画調書 前年その研究活動」及び「リサーチマップ」参照 3) 社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市社会福祉協議会「青葉園・ふれぼの」の運営委員として定例役員会に出席 ・三木市教育センターにおける教育相談＋三木市健康増進課発達相談（全12回/年） ・NPO法人みどり兵庫（法人成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席 ・長田区内の障害児者関連施設との交流（くららベーカリー、NPO法人ウィズアス、） ・ときわ幼稚園の保護者相談を1/月行った。 					
今後の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究のまとめと学会発表 2) 新しい理念に基づく障害児者の療育や福祉事業の考案モデルについて、関係福祉法人やNPO徒連携して一部実践を試みる。 3) 学生に自分で興味を持ったことを自分で調べて発表する楽しさをさらにしかける。 					

個人年間活動報告書

教員名	庄司 靖枝	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	看護学科就職委員会（委員長），看護学科研究倫理委員会（委員長）				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	小児看護学概論、看護対象論Ⅴ、小児援助論、大学道場miniゼミA 医療・看護特論Ⅱ、家族看護学、看護学研究 母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、				
担当科目コマ数	17.80				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍における小児看護領域の対象論Ⅴ演習の工夫（附属幼稚園での演習） 2. 小児援助論「卒業生参加の演習」のさらなる進化のための方策 3. 小児がんの子どもの母親に関する継続研究、スクールナースに関する研究の文献レビュー 					
本年度の目標					
（教育）小児看護領域における演習（対象論Ⅴ、小児援助論）の内容の精錬 （研究）①小児がんの子どもの持つ母親に関する継続研究 ②養護教諭やスクールナースに関する文献レビュー					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 ①附属幼稚園での演習が本年度もコロナ禍のためできず、KITの施設を利用して、学生がこどもの理解ができるように演習を行った。小児援助論に関しては卒業生参加で臨床を想定した場面展開を基に内容を工夫し演習した。 2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 3)社会的活動等 ①2022年KITでの講義「頑張らない離乳食」と子育て相談 ②2022年7月オンライン講義「夏にかかりやすい子ども病気とその対処法」					
今後の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学における効果的な演習の充実 2. 2023 度から在宅看護を担当することから、今後拡大していく在宅看護に関する授業、小児在宅も視野に入れた授業の工夫を行う。 3. 在宅看護学における教材開発や演習方法の構築 4. 2024 年度在宅実習拡大における、実習内容やその方法の構築 5. 子育て支援施設 KIT における、近隣の親たち園の支援（子どもに関する相談の継続） 6. コロナ禍のため以前から継続していた、小児がんの親の会における支援 					

個人年間活動報告書

教員名	魚崎須美	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会・委員、研究倫理委員会・委員、就職委員会・委員 保健師養成課程委員会・委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場miniゼミ、看護活動基礎実習、地域看護学概論（2年）、地域看護学概論（新カリ1年）公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、看護学研究				
担当科目コマ数	17. 13				
本年度の課題					
保健師養成課程の円滑な運営					
本年度の目標					
①保健師として就職を希望する学生が、希望するところへ就職できるよう助言・指導する。 ②論文作成および研究成果の発信に努める。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>新カリキュラムによる授業が開始された。1年生の「地域看護学概論」では、新カリキュラムに対応したテキストを新規採用し、授業も新カリキュラムに対応した内容に変更を加えた。</p> <p>本年度は、年度当初には保健師としての就職希望者が2名あったが、途中で看護師就職希望に転向したため、結果として保健師での就職は無かった。</p> <p>本年度の保健師国家試験受験希望者の中には、看護師国家試験においても危機的状況の学生が複数含まれていた。当該学生には、保健師国家試験よりも先に看護師国家試験対策を優先するように指導を行い、その結果、該当学生はかろうじて看護師国家試験には合格した。しかし、残念ながら保健師国家試験は合格に至らなかった。結果として、本学の保健師国家試験の合格率は極めて悪い結果となった。この反省を踏まえて、次年度の国家試験対策には力を入れたいと考える。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>神戸市保健所への「新型コロナウイルス感染症対策業務」支援、兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会委員</p>					
今後の課題					
①保健師国家試験対策の見直しを行い、保健師国家試験合格率を100%に回復させる。 ②研究活動の継続及び研究成果による社会貢献を行う。					

個人年間活動報告書

教員名	十九百 君子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	神戸常盤大学健康保健センター長、国家試験対策委員長、保護者のためのオープンキャンパス、ハラスメント防止対策委員、学生委員、紀要委員、看護学科学生研究倫理委員、高大連携、チューター調整連絡役、兵庫県看護系大学協議会委員				
クラス担任	4年生 学年責任者	クラブ顧問	茶道部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護教育論、看護学研究、看護活動基礎実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習（看護過程）、課題別総合実習、臨床技術入門、大学道場miniゼミB、				
担当科目コマ数	24.70				
本年度の課題					
教育内容の精選と深化、また、授業担当者と連携し教育方法や教材等の検討 研究時間の捻出と継続的な取り組み。					
本年度の目標					
教育：教育内容の精選と深化、毎週授業終了後、授業担当者と連携し教育方法や教材、 評価方法等の検討に取り組む。 ：学生の個性を把握し、オフスアワーを活用し学生の学修のサポートに務める 研究：計画を基に研究を進め、教育方法や学生指導に反映させる。					
主な活動内容・自己評価					
1) 教育活動： 基本看護技術Ⅰ・Ⅱは、教員間で連携した授業方法やリフレクション等による振り返りにより、学生評価の総合評価は「4.7～4.8」で、なおかつ学生の満足度も高かった。臨地実習ではコロナ禍のため急遽、学内実習に変更になるが事例や援助場面等（教材）効果的な発問等（教育方法）により学びのプロセスを確認しながら学内実習を展開することができた。実習終了後、患者のこと・看護について深く考えた等の学生の反応をえた。学生の学修・つまずきや悩みのサポートは、学生の個性を把握し、教員間・保護者間で情報共有しながら丁寧な学生のサポートに務めた。					
研究活動： 「令和5年度研究計画調書 前年度の研究活動」および「リサーチマップ」参照					
社会活動： 2022年度 全国大学保健管理協会近畿地方部会 企画・運営、 オープンキャンパス協力員、 高大連携：兵庫県立東灘高等学校「看護について学ぼう」、 認知症対応型ディサービス ともの家 ボランティア					
今後の課題					
教育：授業内容・授業方法の検討の継続、学生の個性を把握し丁寧な学修サポート 研究：研究時間の確保と取り組んでいる研究内容をまとめる					

個人年間活動報告書

教員名	岩切由紀	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員、FAST、看護学科臨地実習委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護研究方法論、成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、クリティカルケアⅠ・Ⅱ、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ、課題別総合実習、看護学研究、医療・看護特論Ⅱ				
担当科目コマ数	25.07				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しく担当する科目（成人看護学総論、看護対象論Ⅱ）の授業を先行する科目と連動するように授業を構築する。 2. 臨地実習困難時の学内演習のシミュレーション教育の充実を図る。 3. シミュレーション教育に関連した事例に関する共同研究に取り組み成果を出す。 4. 看護学科臨地実習委員会の運営方法の変更による機能的な活動を促す。 5. 入試に関する看護学科志願者の減少を改善する取り組みと、意欲・学力の高い生徒が確保できるよう試験方法の検討を行う。 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアⅠ・Ⅱと先行する科目（成人看護学総論、看護対象論Ⅱ）と連動するよう授業を構築する。 2. 課題別総合実習、療養支援実習Ⅱ・Ⅲの臨地実習での学習を補償する学内実習の構築。 3. 継続中の研究課題について、論文作成を達成する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染（以下、COVID-19）対策下に対面授業を進め、演習を直接指導することが出来た。</p> <p>授業のクリティカルケアⅠでは、臨地実習で課題となる疾病と治療法の理解から看護を考える学習過程を強化した。しかし、下位層の学生では理解が伴っていない現状があり、介入の検討が必要である。</p> <p>本年度初めて担当した医療・看護特論Ⅱは、国家試験に直結している。担当時間が後期の最終であるが、最重要内容を洗練して理解する学習を早期の担当教員と協力して定着させる必要がある。国家試験の合格率の低迷は、低学年から、かつ各自の学習方法からの検討を行う必要がある。</p> <p>(2) 臨地実習では感染対策上、療養支援実習には制限が一部あったが、療養支援実習Ⅲは受け入れられ実習が可能であった。しかし、先行する臨地実習を経験していないこと、実習内容には臨地で制限があったことから、従来の指導はできていない。学内での実践的な演習の構築や、視聴覚教材を用いた学習内容とし、事例の提示方法を工夫した。次年度も学内実習となる前提も含めシミュレーション教育について充足するための準備（学習・機器類）が</p>					

継続して必要となる。

(3) 看護学科の取り組みであるチュートリアル教育については、十分に時間をとり学生と関わることができていない状況があった。

2)研究活動

「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照

3)社会的活動等

日本救急看護学会調査研究委員会

学術集会で「研究助成申請」普及に向けた交流集会を企画・実施した。

セミナーではオンラインを活用し「事例研究：基礎・実践例」と「看護研究セミナー」を開催した。その他、研究助成申請の審査を実施した。また、COVID-19の最前線で看護を実践した経験から救急看護の本質を見出す研究の計画、臨地審査・研究助成申請を経て、調査に取り組んでいる。

今後の課題

1) 教育活動

療養支援看護領域教員の体制を整え、令和6年開始の新カリキュラムに伴う臨地実習科目を開始するよう準備（実習要領・評価指標・臨地実習指導体制）を整える。

令和5年度より科目担当となった成人看護学概論と看護対象論Ⅱの履修内容から、クリティカルケアⅠ・Ⅱ、慢性病看護論などの各論、および実習科目との繋がりを評価する。

COVID-19感染拡大に伴う学内実習の充実を目指し導入したシミュレーション教育は継続して充実を図る必要がある。

2) 研究活動

療養支援看護領域での研究課題（研究代表：野田部恵）をテーマ別研究の申請し、調査実施に向けて進める。

3) 社会的活動

日本救急看護学会調査研究委員会で行う研究代表として、調査を進め研究成果を学術集会ならびに論文投稿により会員に還元する。

個人年間活動報告書

教員名	中田康夫	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、利益相反マネジメント委員会、新型コロナウイルス感染症対策本部・遠隔授業実施特命チーム、情報インフラ整備ユニット、看護学科4年生国家試験対策講座				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる➤ときわびとⅠ、まなぶる➤ときわびとⅡ、情報基礎、情報メディア演習、基礎統計学、いのちと共生、医療統計学、疫学、看護				

	学研究
担当科目コマ数	10.20
本年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ● 基盤教育科目の意図する、「学ぶ喜び、知る愉しさ」を担当科目の中で具現化 ● Social Engagement の質量ともの充実 	
本年度の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育活動では、アクティブラーニングの推進 ● 研究活動では、英文誌への投稿と国際学会での発表 ● 社会的活動の可能な限りの推進 	
主な活動内容	
<p>1) 教育活動</p> <p>これまで「まなぶる▶ときわびと I & II」の経験を踏まえ、そこでの教授学習方法を他の科目にも援用し、前年度以上に学生の主体的・能動的な学修をサポートできるように工夫しつつ授業を展開した。具体的には、教授パラダイムから学修パラダイムへの転換の意識し、教員が「何を教えたか」ではなく、学生が「何を学んだか」に重点を置いた授業を展開することにより、学生が受け身的な学修から主体的な学修へとさらに深化していったと考える。このことは特に N 科 4 年生に対する国家試験対策講座において活かされたと考える。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師 2. 令和4年度きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長 3. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？ その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全4回） 4. 日本赤十字看護学会誌 選任査読委員 5. 日本赤十字看護学会 評議員 7. Associate Editor: International Journal of Institutional Research and Management (IJIRM) 8. Program Committee: International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI of 12th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2022) <p>上記の活動はすべて過年度からの継続的な活動であるが、すべての活動に対して次年度も引き続き支援を要請されていることから、一定の社会貢献ができていると考えている。</p>	
今後の課題	

- 高等教育の質保証と学修成果の可視化に関する研究の推進
- 看護基礎教育における数理・データサイエンス教育のありかたの検討と推進
- 介護予防・健康寿命の延伸に関する研究成果の産出
- 社会的活動として、コロナ禍で中断中の「介護予防カフェ」のより一層の推進と深化

個人年間活動報告書

教員名	藤原 桜	所属学科等	保健科学部 看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会委員、臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、高大連携（明石南高校担当）				
クラス担任	4年Aクラス（4年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護対象論Ⅰ、国際保健医療活動Ⅰ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ、課題別総合実習、看護研究、大学道場miniゼミB				
担当科目コマ数	22.53				
本年度の課題					
1. 教育活動：看護技術の教育方法・内容の充実（特にTBL・フルスケールシミュレーション） 2. 研究活動：テーマ別研究（2017年度）の成果公表。 3. 社会活動：人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動。					
本年度の目標					
1. 教育活動：教育方法および内容の充実を図ることができる。 2. 研究活動：テーマ別研究（2017年度）成果が公表（論文）できる。 3. 社会活動：人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動ができる。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動：主担当科目のみ記載 基本看護技術Ⅲ：フルスケールシミュレーションは、対面で、かつ4年生の協力を得て行った。4年生はロールモデルになり、充実した演習になった。その結果、 <u>授業総合評価は4.9であったが、回収率が13%だったため、本年度の目標1の達成度は評価できない。次年度は、回収率があげられるような対策を講じたい。</u> 看護対象論Ⅰ：（本年度は急遽主担当となった）本授業は看護の対象の理解を目的としているが、本年度は自己理解についての授業を増やし、さらにセルフコンパッションの方法としてマインドフルネスを取り入れた。また、対象者との交流を分析するために、交流分析やプロセスレコードを活用した。その結果、 <u>授業総合評価は4.6であった。この結果から本年度の目標1は本授業からは概ね達成できたと考える。しかし、授業時間外の学習時間が2.98（学科3.34）と低いので次年度は対策を講じたい。</u>					
2)研究活動：「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 兵庫県消防学校令和4年度救急救命士養成課程にて授業を担当、子育て支援施設とモトロクとノエスタで「アロマハンドクリーム作り」講座を担当、高大連携（明石南高校）で3					

回の授業を担当した。 <u>これらのことから本年度の目標3は概ね達成できた</u> と考える。
今後の課題
1. 教育方法・内容の充実（特に看護対象論Ⅰ）。 2. テーマ別研究（2022年度）の成果を公表する（学術集会と論文）。 3. 人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動を継続する。

個人年間活動報告書

教員名	黒野利佐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流委員会 副センター長・国家試験対策委員会 副委員長				
クラス担任	1年生主担	クラブ顧問	陸上部		
担当科目名	ミニ道場ゼミ、老年看護学概論・対象論Ⅲ、老年看護援助論、異文化看護論、活動基礎実習・療養支援実習Ⅰ及びⅡ、看護研究、課題別実習看護特論				
担当科目コマ数	20. 50				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も老年援助論の演習においてピアチューターを活用するが、学生が解剖生理と病態生理、そして治療や看護を関連させて興味を持てるように授業内容を工夫の必要性がある。 ・国家試験対策においては低学力、成績低迷者の意欲の向上、生活習慣・学習方法の改善を個別に図れていない。 ・KICC や他の地域連携を通して多文化共生に役する国際保健活動やボランティアに学生や卒業生を巻き込み地域における課題を探る 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も老年援助論の演習においてピアチューターを活用するが、学生が解剖生理と病態生理、そして治療や看護を関連させて興味を持てるように授業内容を工夫する ・国家試験対策においては低学力、成績低迷者の意欲の向上、生活習慣・学習方法の改善を個別に図り、全員合格を目指す ・KICC や他の地域連携を通して多文化共生に役する国際保健活動やボランティアに学生や卒業生を巻き込み活動を継続して地域における課題を解決していく糸口を探る。 					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動：老年援助論のピアチューターを使つての授業展開は、まさに教えることは学ぶことの実践であり、多くの学生から高い評価と支持を得る一方、チューターする内容を学生に一任すると易きに流れてしまうので、演習内容の質の担保をするためには二コマの演習授業に対して、課外の時間で平均十数時間以上かけて教員も授業づくりに時間を要するため、アルバイトに支障があったなどで大変低い授業評価を付ける学生もい					

た。今年度は授業の中で昨年度の解剖生理の理解のための時間を2倍確保し、学生の自己満足度は上がったが、本試験で知識の定着ができていないことが露呈。やはり学生の解剖生理、病態理解の不足を改善できないことはどの領域においても課題である。

・国家試験対策においては、結果だけを見ると5名の看護師国家試験不合格者を出した。学生それぞれの課題、一度インプットした誤情報がなかなかリセットされず、わからないことは直ぐ暗記で覚えようとするタイプ、本当は看護師になりたくなかったことを受験前から口にしつつ、親の言う通りすべて塾頼みで失敗したケース、成績が少し上がると気を抜くタイプ、精神的な不安定を抱えおそらく受験で精神的に追い詰められたケース、根拠のない高い自己評価を維持するタイプなど、通常の受験テクニックだけではやはり拾えない個別の対応が必要であったといえる。

2)研究活動

「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
学会発表（2回）

3)社会的活動等

結核検診に伴う大黒公園での国際保健室の活動は事前に保健所と打ち合わせが定例化し円滑に活動ができた。KICCとの連携では、留学生の食糧支援に伴う健康相談会からFMワイワイでも同様の健康相談をしてほしい旨オファーがあり、年間5回の開催ができ、一回当たりの利用者数も20人近い。卒業生や在校生も留学生との交流を楽しみながら、健康課題についても考える機会を得ている。

今後の課題

1) については領域が基礎と変更になるが、一年次からかかわれる教科を担当するので、技術においても解剖生理の知識が必要であることに学生が興味を持てるような教材、授業の展開を考えていきたい。

国家試験対策ではやはり個別の弱点、強みの把握が必要で、弱点に応じた指導を早期から開始していく以外対策は考え難い。国師対策で低迷する学生は研究でも進捗状況が悪いので、研究をできるだけ早期に終わらせることも大切な対策だと考える。

2) 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照

3) これからの国際保健室活動で得た情報からどのような課題を立て取り組んでいくのか、保健所やKICC, 地域のNPO 法人や、近隣大学との連携、引き続き学生の力が発揮できるようなフィールドワークを続けリサーチアクション的取り組みを展開していく。

個人年間活動報告書

教員名	島内 敦子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、自己点検・評価委員会、看護学科就職委員会、実習委員会、高大連携				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護活動基礎実習、母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、医療・看護特論Ⅱ（医療専門職の動向）、大学miniゼミ、				

	臨床技術入門、母子支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護学研究
担当科目コマ数	26. 13
本年度の課題	
①COVID-19 禍における講義内容の精選 ②COVID-19 禍における実習内容の工夫と充実 ③KIT における「卒乳・断乳教室」「祖父母教室」の開催に向けた準備及び定着化	
本年度の目標	
①講義内容の工夫と遠隔を含めた、学生の主体的な学修の支援を行う。 ②実習期間の短縮及び学内での実習を行う上での実習内容の工夫を行い、充実を図る ③KIT における「卒乳・断乳教室」「祖父母教室」を開催し、地域のニーズに合わせた子育て支援の充実と健康教育の開催し、内容を精製する。	
主な活動内容・自己評価	
1)教育活動 今年度も母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけた。特に、分娩期・産褥期・新生児フィジカルアセスメントに関する演習は、4年生の協力も元、屋根瓦教育を行い、3年生への学修および4年生の他者への説明を行うことによる学修の深化に効果的であった。 また、学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的学ぶ方法や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。	
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照	
3)社会的活動等	
①甲子園短期大学 性教育講義 ②高大連携 福崎授業 1回 (チーム医療)	
今後の課題	
授業内容(特に屋根瓦教育)の効果についての検証を続けていくと共に、対面授業の効果とCOVID禍で得られたmanabaを最大限に利用した授業の工夫を行っていく また、今年度より開始した、KIT における「卒乳・断乳教室」「祖父母教室」の内容の精製を行い、大学における妊産婦支援を具体化し、その上で COVID-19 禍を災害と捉え、災害時における母子支援、および災害に備えた母子支援準備についての研究を検討する。	

個人年間活動報告書

教員名	立垣 祐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	危機管理(災害)委員会・委員 臨地実習委員会・委員 まちの保健室事業拠点「神戸常盤大学」こころの健康相談 相談員				

クラス担任	—	クラブ顧問	—
担当科目名	災害看護学, 精神看護学概論, 精神看護特性論, 精神援助論, 総合看護実習(精神), 健康支援実習Ⅱ(精神), 家族看護学, 大学道場miniゼミ, 看護活動基礎実習		
担当科目コマ数	20. 10		
本年度の課題			
1) 教育活動について, コロナ禍で実習環境を整えることが困難であった 2) 研究活動について, 科研の研究活動が著しく遅延している			
本年度の目標			
1) 教育活動について, 可能なかぎり, 臨地で学べる学習環境を整える. 2) 研究活動について, 科研および実習施設との共同研究活動を進める.			
主な活動内容・自己評価			
1) 教育活動 <ul style="list-style-type: none"> 科目責任者 災害看護学, 精神看護学概論, 健康支援実習Ⅱ(精神) 科目担当者 精神看護特性論, 精神援助論, 総合看護実習(精神), 健康支援実習Ⅱ(精神), 家族看護学, 大学道場miniゼミ, 看護活動基礎実習 <p>[自己評価] <u>下記, 主に担当している授業評価をふまえると, 学科平均を0.3ポイント以上, 上回っており, 概ね教育活動は安定していると考え.</u> <u>災害看護学(4.8), 精神看護学概論(4.9), 大学道場miniゼミ(5.0)</u> <u>実習については, 学内実習に代替することなく, 臨地での実習を予定どおり調整できた.</u></p>			
2) 研究活動 <ul style="list-style-type: none"> 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 <p>[自己評価] <u>科研については大幅に遅延しており次年度は計画的に取り組む.</u></p>			
3) 社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> 日本災害看護学会 理事, 社会貢献・広報委員会 委員長, 先遣隊, ネットワーク活動・調査調整部メンバー, 学術学会座長等 兵庫県在介協阪神ブロック研修会講師「精神疾患を持つ人の地域支援の在り方について考える」 			
今後の課題			
1) 研究活動については, 科研の研究活動を必ず進める. 2) 教育活動については, より専門性の高い内容を楽しく学ぶ工夫をする. 3) 社会的活動については, 学外の組織と積極的に関わり, 開かれた活動を行う.			

個人年間活動報告書

教員名	伊東愛	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会、臨地実習委員会、個人情報保護委員会、保健師課				

	程委員会		
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし
担当科目名	公衆衛生看護展開論Ⅰ、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、健康相談の理論と方法、看護学研究、看護活動基礎実習		
担当科目コマ数	16.53		
本年度の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度（着任年度）は保健師養成課程で教授すべき内容を限られた時間内に盛り込むことができたが、時間数が圧倒的に足りずに詰め込み過ぎ感があったことから、令和4年度は科目間連携を行い、時間配分や内容を再検討する必要がある。 ・令和4年度の看護学科保健師課程の4年生は、令和2年度末の選抜時期に希望者が全員、保健師課程に進んでおり、成績が考慮されることはなかったことから、GPAが1台の学生も存在した。保健師・看護師のダブル受験・ダブル合格が極めて困難な状況にある。 			
本年度の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程3年生で教授する内容を洗練し、科目間連携できるよう調整し実施する。 ・看護師・保健師国家試験対策において、保健師課程4年生が看護師合格100%を実現できるよう学習支援を行いながらも、保健師受験を諦めないようにメンタルサポートを行い、学習を支援する。 ・令和4年度に策定した保健師課程選抜の目安（累計GPAの活用）に則り、学生自身が学習しよう思えるような意識化を図り、保健師を志す学生を一人でも増やすべく、3年次の授業で保健師活動の実践演習を盛り込み、保健師の魅力を伝える。 			
主な活動内容・自己評価			
1)教育活動			
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程3年生の科目である、『公衆衛生看護展開論Ⅰ』『公衆衛生看護展開論Ⅱ』『公衆衛生看護展開論演習Ⅰ』『公衆衛生看護展開論演習Ⅱ』の4科目を科目責任者として受け持ち、令和4年度の地域・在宅看護学系の状況から全て単独で請け負った。そのおかげで科目間連携を行いやすく、講義・演習・実習のステップを意識した内容に組み立て替えることができた。授業アンケート結果も昨年度より総合評価が4科目それぞれ、0.2、0.8、0.4、0.5ポイント上昇した。 ・一人でも多くの学生に保健師として就職したいと思ってもらえるよう、2年次の『健康相談の理論と方法』や上記の4科目を通して、保健師としての自分の体験やコロナ対応などの実践活動を伝えたり、やりがいを伝えた。現3年生の保健師希望は16名中6名であると聞いている。 ・保健師課程の4年生は最終的に保健師で就職する学生が0名であったことから、看護師の合格を絶対条件として支援する必要がある。しかしながら、12月末時点で看護師の合格が危ぶまれる学生が多数おり、自身の面談だけでは足りないと考え、保健師課程の半分の人数である9名の学生に対して学科長や領域長の面談を行ってもらった。気持ちの浮き沈みがあったり、学習方法が分からなかったり、理解がゆっくりな学生もいたことから、領域内での実習担当を調整し、受験日当日間際まで学習支援と応援メッセージを送り続けた。 			

<p>保健師受験を自己判断で辞退した学生は1名いたが、それ以外は受験した。結果、保健師国家試験は3名が不合格であった。保健師課程の半数の学生が看護師の合格も危ぶまれていたが、全員、看護師国家試験を合格した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本災害看護学会第4回年次大会において、市民公開講座を担当し、『すまいの構造とそれぞれの防災 一戸建/マンション・木造/鉄筋で備えはどう変わる？建築学からの提案』というテーマで企画・運営を行った。
<p>今後の課題</p> <p>令和4年度の課題に対する活動を振り返るとおおそ解決できたことから、活動自体は継続することとし、新たに考えられる課題を以下に挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの対応が変わることが予測されるため、臨地実習の経験が少なかった学生の思考の転換（臨地実習の重要性等）を図る必要がある。 ・新カリの学生対応として実習準備を行う必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	西村充弘	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員会・図書委員会・高大連携				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康支援実習Ⅱ（精神）、課題別総合実習（精神）、精神看護 特性論、精神看護援助論、災害看護、看護学研究				
担当科目コマ数	18. 43				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・依存症家族支援のための介入プログラムの効果について整理継続。 ・兵庫精神医療の歴史について資料を整理継続。 ・精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）の検討継続。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）の検討継続 ・日本看護倫理学会第16回年次大会に交流集会共同主催 ・科研費報告書の作成・報告 ・依存症家族支援のための介入プログラムの効果整理 ・兵庫精神医療の歴史について調査研究 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>地域実習では、コロナ感染の影響により当初予定をしていた施設での実習は不可能となったものの、代替施設の協力が得られ予定どおり実施することができた。</p> <p>地域で生活をしている精神障害をもつ当事者や精神看護の実践を通して、地域で</p>					

<p>生活をする事への思いや不都合などを学生個々が実感することが出来た。</p> <p>精神科病院には4日間しか行けなかったが、先に地域で生活をしている精神障害をもつ当事者と会話が出来ていたので、どのような状態で地域に戻っていくのか現状を知ることが出来ていた。学生からも「退院への話がしやすかった」とか「もう少し、実習をしたかった」などの感想が聞けた。</p> <p>次年度も地域包括ケアを前提とした精神看護を取り入れていく。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携の講師 兵庫県立福崎高校 5月10日 ・兵庫県青少年本部主催；スマホ依存の子供たちのための「人とつながるオフラインキャンプ2022」 8月16日～20日、11月13日 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の目標事項の計画的遂行。
--

個人年間活動報告書

教員名	阿児馨	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、就職委員、看護協会まちの保健室、すこラボ				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	看護教育論、家族看護論、老年援助論、看護活動基礎実習、療養支援実習ⅠⅡⅢ、課題別総合実習、看護学研究				
担当科目コマ数	22. 77				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の健康面、成績、履修状況について担任、教務委員として学生指導が必要 ・カリキュラム改正に伴い、療養支援実習Ⅰの実習計画の検討が必要。 ・2023年女性研究者奨励金採択。5月交付の予定。報告書の提出まで計画的に行う。 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 履修登録、非常勤講師のmanabaシステムへの対応により学生の学修を保証する。 2) 次年度療養支援実習Ⅰの計画立案、準備ができる。 3) 高齢化におけるコミュニティの創出、意識の醸成に関する研究活動を進める。 4) 共同研究、研究協力は、役割を明確にして遂行していく。 					
主な活動内容・自己評価					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・オムニバスで担当することになった科目の単元の考察、事例の検討、教授内容の精選、他の教員と授業評価を行った。 					

2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
3) 社会的活動等 <ul style="list-style-type: none"> ・長田区健康センターの依頼、区の結核健診併設の健康相談を実施し、外国人を含む地域住民の健康予防活動実施。他にKICC、高取教会での健康相談（計4回） ・はすいけデイサービスに於いて介護予防事業として健康講座（2回） ・すこラボ講座「フレイル予防」をテーマに0科教員とWeb講座を行った。 ・大学の市民講座「健康延伸のためのフレイル予防」をN科教員2名、学生3名に協力を得て行った。 ・大学の健康フェスタに於いてN科教員5名と健康相談とフレイルチェックを行った
今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会、領域が新体制でスタートする。情報共有、業務（役割）の遂行。 ・担任として2年生の健康・成績・履修に関する指導・支援。 ・研究の報告書の作成。

個人年間活動報告書

教員名	伊東 美智子	所属学科等	看護	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員会、子育て総合支援施設KIT運営委員会(母子支援)、まちな保健室 神戸常盤大学キャンパス拠点(会計)				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	看護活動基礎実習、母性援助論、家族看護学、母子支援実習Ⅱ（母性）、課題別総合実習看護活動基礎実習、看護学研究				
担当科目コマ数	31. 27				
本年度の課題					
①母性看護学の講師として、実習・演習・講義における役割が果たせていない。 ②専門領域である母性看護学、特に地域の母子支援に繋がる助産師活動に関するテーマについて、不十分である。					
本年度の目標					
① 母性看護学の講師2年目として、実習調整や一部の講義も担い、経験を深める。 ② 専門領域の経験と新しい知識や技術を基にした、地域の母子支援活動を実践する。そしてそれを研究活動と連動することができる。					
主な活動内容・自己評価					
1) 教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学生に合わせて、看護師になるための知識と技術の修得に向け、講義や演習、臨地実習において関わっていった。講義や演習では領域内で緊密に、臨地実習先では先方の管理職や学生担当者の意向も踏まえ、常に報告・連絡・相談しながら取り組んだ。 					

<p>・周産期医療も日進月歩している。最新の情報や知識・技術に基づいた講義や指導が出来るよう、参加可能な講義は積極的に受講し、学生の教育に反映できるよう心掛けた。</p>
<p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究活動調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p>
<p>3) 社会的活動等</p> <p>・昨年より企画してきた、本学の提携施設子育て総合支援施設KITにおける卒乳・断乳講座を5回／年、孫育て講座を4回／年、今年度から開始できた。</p> <p>・子育て中の母親支援を目指し、「マタニティ・エステ」下肢マッサージのディプロマ取得を果たした。10月には子育て中の母親を対象とした、下肢マッサージの効果を測る研究をKITにて行った。応募者には無料で下肢のエステを実施し、代わりにアンケート回答やストレス測定のコラボレーションを得た。現在データ分析中である。</p>
<p>4) 自己評価</p> <p>・インプットした知識や技術を、次年度以降はよりアウトプットしてゆきたい。</p>
<p>今後の課題</p>
<p>①母性看護学の講師として、実習・演習・講義における役割遂行に努める。</p> <p>②専門領域である母性看護学、特に地域の母子支援に繋がる助産師活動に関するテーマの実践に向けて継続して取り組むと同時に、評価も行い根拠に基づいた活動を目指す。</p>

個人年間活動報告書

教員名	野田部 恵	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会、臨地実習委員会、すこラボ委員会、				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ、看護活動基礎実習、課題別総合実習、基礎看護学実習Ⅱ、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ、看護学研究				
担当科目コマ数	24, 37				
本年度の課題					
①臨地実習では、学生一人ひとりの特性に応じた教育を実践していく。					
②研究活動：社会的活動に参加しながら、研究テーマおよび研究計画書の立案を行う。					
本年度の目標					
①臨地実習では、学生一人ひとりの特性に応じた指導が行えるよう面談などを適宜行いながら進めていく。					
②研究活動：社会的活動に参加しながら、研究テーマおよび研究計画書の立案を行う。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
<p>・臨地実習では、基礎看護学実習や看護活動基礎実習では1・2年生に対して、療養支援実習Ⅱ・Ⅲでは3年生、課題別総合実習では4年生の臨地実習指導を担当した。それぞれの実習の特性や学生の状況などを把握することができた。初めていく実習施設であったため、実習施設との連携および十分な指導の不足から、学生にとって有意義な実習にな</p>					

<p>らなかったクールもあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生指導では、1年生の面接を行い、成績低迷者や問題行動のある学生に対しては適宜面談を実施し指導を行った。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今年度のTOKIWAふれあい健康フェスタ、地域公開講座に参加した。</p>
<p>今後の課題</p> <p>来年度は、担当する授業科目について、授業研究を行いながら学生意欲を喚起させるような工夫を行っていく。臨地実習では、実習施設との連携を図り、臨地にて学生が充実した経験ができるように指導を工夫していく。</p> <p>研究活動では、テーマ別研究の申請および科研申請に挑戦していきたい。</p>

個人年間活動報告書

教員名	尾崎優子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会 委員 看護学科臨地実習委員会 委員				
クラス担任	3年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護対象論Ⅴ、小児援助論、看護活動基礎実習、母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、看護学研究、まなぶるときわびとⅠ、地域との協働A				
担当科目コマ数	31. 77				
本年度の課題					
<p>担当授業コマ数が一気に増えた事、それが特に前期に集中しほぼ毎日授業や実習がある状態だった事、小児関連実習の要項作成、スケジュールと実習内容の調整等々のほとんどを担った事により、授業研究や研究活動はほぼストップし、科研費申請もできなかった。次年度は、学科・領域内教員とよく連携し、修了年限の迫る博士課程論文執筆に集中し今後の教育研究活動の充実に向けた自己の態勢を整えることを課題とする。</p>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当科目の充実を図る。 ・ 各種委員会、担任の職責を引き続き果たす。 ・ 学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文を投稿する。 					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生担任としての学生支援活動（個人面接、ガイダンス） ・ 小児看護学各科目授業の実施 定期試験作成・実施・成績評価 ・ 臨地実習を想定した学内演習の計画・実施・評価（小児援助論・課題別総合実習） ・ 各臨地実習指導、レポート指導、実習評価 ・ 実習病院臨床指導者会へのweb会議、 ・ 令和4年度臨地実習指導研修会の企画・運営 					

<ul style="list-style-type: none"> 看護学研究指導 基盤教育分野（前期まなぶる、地域との協働Aのうち1コマ分）の授業の実施
2)研究活動
<ul style="list-style-type: none"> 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 博士予備審査論文を提出した
3)社会的活動等
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 日本福祉教育・ボランティア学習学会第28回こうべ大会実行委員 <p>以上の取り組み、活動状況より、令和4年度の目標は達成できた。</p>
今後の課題
<p>小児看護学領域の教員体勢が大きく変化し、教員メンバーの変更に加え教員数が減少した。新たな体制での授業活動、実習指導体制、研究活動の充実に向けた方策を検討しながら活動することが重要な1年となる。</p> <p>【次年度の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当科目の充実を図る。 各種委員会、担任の職責を引き続き果たす。 学会活動、論文投稿を積極的に行う。博士論文を受審する。

個人年間活動報告書

教員名	紀ノ岡 浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会、教務委員会、国家試験対策委員会、親睦会				
クラス担任	2年Bクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶる▶ときわびとⅠ、地域との協働A、国際理解Ⅰ、国際保健医療活動Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	29.77				
本年度の課題					
2つのテーマ別研究（ループリック・リカレント教育）を論文にまとめる 新型コロナウイルス感染拡大に伴う学内領域別実習のあり方に関する研究を実施する					
本年度の目標					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
<p>地域との協働Aの授業として「サービスマナー」の講義を対面で実施。</p> <p>国際理解1の科目を1単元担当し、講義を行う。</p> <p>まなぶるとときわびとⅠにおける講義及び指導。</p> <p>看護活動基礎実習の学内実習案を作成し、実施。</p> <p>療養支援実習Ⅱ・Ⅲの学内実習計画を立案、実施。</p> <p>療養支援実習Ⅲの学内演習計画及び事前学習計画を立案、実施。</p> <p>国家試験対策委員として1・2年生の国家試験対策を担当する。</p>					

2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
3)社会的活動等
今後の課題
研究業績が伸び悩んでいるため、教育活動を控えめにし、研究できる時間を確保する。

個人年間活動報告書

教員名	原 希代	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委委員 臨地実習委員 地域交流センター委員				
クラス担任	看護学科3年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護援助論・在宅看護特性論・健康支援実習Ⅰ・課題別実習・看護研究・まなぶるときわ人				
担当科目コマ数	20. 27				
本年度の課題					
① 在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立 ② 研究の再開 ③ 地域における基盤づくり					
本年度の目標					
① 在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立 ② 研究の再開 ③ 地域における基盤づくり					
主な活動内容					
1) 教育活動					
①在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立 ・授業案を系内でブレインストーミング行う。また、それらの授業を評価、修正をおこないながら実施する予定であったが、本年度は、授業担当から外れたため実施困難であった。 ・実習におけるカリキュラム変更のため、実習施設の調整を行い新カリキュラムにおける準備を整えることができた。					
②「ICTと動画をハイブリッドした在宅看護学教材の開発」における基盤の確立 ・動画撮影における施設・対象者の選定を行った。 ・動画撮影における施設・対象者の選定における関連資料の作成を行った。					
2) 研究活動					
「令和5年度 研究調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ参照」					

<p>3) 社会的活動等 医療的ケア児とその家族の集いを、緊急事態宣言解除時に実施する。</p>
<p>今後の課題</p> <p>教育活動においては、実習施設から具体的な課題が提示されたため、授業への反映、実施を行う。ICTと動画をハイブリッドした在宅看護学教材の開発を行う。 研究においては、コロナの状況をふまえながら、研究の再開を目指す。 新カリキュラムに伴う、入退院支援センターの確保、地域包括支援センターの確保を行い、次年度に備える。</p>

個人年間活動報告書

教員名	中村由果理	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会・広報委員会・神戸常盤地域交流センター・国家試験対策委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ～Ⅲ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習（看護過程）、課題別実習、看護教育論、看護学研究、まなぶる▶ときわびと				
担当科目コマ数	24、47				
本年度の課題					
学生個々を大切にした教育を実践していく。 研究活動の充実を図る。					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学の授業を通して学生個々と向き合い看護実践につながる教育を行う。 2. 看護学実習における看護教員の関わりについて研究を進めていく。 3. 社会的活動として、地域医療に関することに貢献できる。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>基本看護技術Ⅰにおいては、寝衣交換・栄養摂取・食事の援助に関する講義を担当した。・基本看護技術Ⅱにおいては、呼吸を整える技術・栄養管理に関する看護に関する講義を担当した。・基本看護技術Ⅲにおいては、脳神経・筋骨格筋系のフィジカルアセスメントに関する講義を担当した。・看護教育論では、継続教育の現状と課題についての講義を担当した。・看護学研究では、看護学生の看護実践、コロナ禍における面会制限での患者の影響、インフォームドコンセント後の看護師の関わりについてなどのテーマで等指導した。・全学の入学前教育に参加した。</p>					

<p>教育活動は概ね目標達成できた。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等 神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科、理学療法士科、作業療法士科「吸引」に関する講義を行った。 社会的活動は、医療に携わる人への教育活動を行うことができた。</p>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅰなどの新たな科目について充実した実習指導が行えるよう努める。 ・これまで行ってきた研究の論文作成をし、投稿を行う。

個人年間活動報告書

教員名	江口 実希	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	4年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康支援実習Ⅱ（精神）、課題別総合実習、活動基礎実習、看護研究、精神援助論、まなぶるときわびと1				
担当科目コマ数	21.83				
本年度の課題					
教育では、委員会活動、講義内容・実習指導の充実化が課題であった。また、令和3年度は、社会貢献活動の参加がほとんどできず、令和4年度は、社会貢献活動への積極的な参加が課題であった。					
本年度の目標					
<p>1、教育活動の充実：委員会活動(国家試験対策委員会)や学年担任(4年生)を通して、国家試験合格100%を目指し、学習支援とメンタルヘルス支援を行う。講義では、シラバスを見直し、国家試験対策や実習への準備性をさらに整える。</p> <p>2、社会的活動の充実：社会貢献活動に参加する</p> <p>3、研究活動の継続</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動 看護師国家試験対策として、今年度は学生面接や追加の低迷者対策、確認テストの実施、模擬試験の追加など対策を強化した。メンタルヘルスの不調から、卒業の延期や国家試験受験を控えた学生はいなかった。しかし、結果として看護師国家試験の合格率は低迷を続けており、対策の見直しが必要であると考え。SD委員会では、学科内でFD研修を実施し教員間で考えの共有が活発に行えた。講義では、国家試験対策を組み込んだ内容を実施し、学生評価の上昇が見られた。次年度に向けてさらに内容のブラッシュアップ</p>					

<p>プを行いたい。実習でもコロナ禍の影響がありながらも感染予防を行いながら臨地実習が予定通り行えた。また、学生の授業評価も上昇が見られた。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等 子ども食堂の運営ボランティアや、健康フェアでの健康相談ボランティアをおこなった。</p>
<p>今後の課題</p> <p>今年度は、特に、国家試験合格率の向上に向けての対策が課題である。国試委員のみならず、これまでよりも学科全体で学生のフォローが行えるように学生の状況を共有していきたい。また、国家試験対策につなげるための実習体験のさらなる充実を支援することが課題である。令和4年度は、教育活動に主眼を置いたため、研究活動の継続が十分行えていない。令和5年度は計画的に研究に取り組むことも課題である。</p>

個人年間活動報告書

教員名	松岡 真菜	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会、臨地実習委員会、FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶるⅠ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	29.80				
本年度の課題					
新型コロナウイルス感染拡大後の臨地実習の実施と検討					
本年度の目標					
新型コロナウイルス感染拡大後の臨地実習の実施と検討					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 実習指導					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等					
今後の課題					
新型コロナウイルス感染拡大後の臨地実習の実施と検討					

個人年間活動報告書

教員名	大森雅人	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長、学部長、ときわ教育推進機構長、こども教育学科改革検討委員会委員長、学園一体化推進協議会、運営委員会、学長会議、入試委員会（合否判定部会）、遠隔授業サポートチーム長、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	保育内容（環境）、こどもと環境、保育・教育課題研究Ⅰ 教職実践演習（幼稚園・小学校）、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教育と情報、教育方法・技術論 情報メディア演習				
担当科目コマ数	11.53				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・策定した学科の改革案の令和5年度実施に向けて、その準備を着実にを行う必要がある。 ・コロナ特例で延長中の科研費研究に関して、一定の成果を上げる必要がある。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度末に提出した中免1種（理科）養成課程申請が認可されるように、万全の体制で文部科学省の対応にあたる。 ・策定した学科の改革案の令和5年度実施に向けて、中免課程以外の事項に関しても、遺漏が無いように準備に努める。 ・科研費研究計が一応の最終年度なので、成果が得られるように研究を推進する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動 授業担当の他、大学・学科全体の教育に関する管理運営・方針策定に携わった。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等 高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校で講師を務めた。川西市の公立幼稚園の園内研究の指導を行った。全国保育士養成協議会理事及び社会福祉法人（保育所経営）2法人の評議員を務めた。</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に認可された中免養成課程、学校図書館司書教諭養成課程、認定絵本士養成課程の円滑な運営を着実にを行う必要がある。 ・令和5年度から始まる「ときわ学びの森」プロジェクトを推進して、学生募集の改善、教育内容の改善を図る必要がある。 ・コロナ特例で延長中の科研費研究も次年度がいよいよ最終年度になるため、一定の成果を上げる必要がある。 					

個人年間活動報告書

教員名	光成研一郎	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	テニス部		
担当科目名	「教育原理」・「教育方法・技術論」・「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」・「卒業研究Ⅲ」・「卒業研究Ⅳ」・「まなぶる▶ときわびとⅠ」 「まなぶる▶ときわびとⅡ」・「教育と人間」				
担当科目コマ数	9. 40				
本年度の課題					
<p>教育に関しては、全学共通必修科目「まなぶる▶ときわびと」の科目責任者として学内外（神戸常盤学術フォーラム口頭発表・初年次教育学会第15回大会課題研究シンポジスト）に学修成果を発表することができた。令和5年度は担当教員が大きく変更となるので、この授業のねらい、運営方法の一層の徹底を図る。研究に関しては科研費に採択されたテーマ「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」を延長せず昨年度までで一区切りをつけたので、その総括を行う。</p>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・「まなぶる▶ときわびと」を新しく担当する教員へのねらいや運営方法の徹底を図る ・科研テーマの総括を行う 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の運営 ・入学前教育の立案・実施 ・常盤女子校の入学前ガイダンスの実施 <p>等を実施した。計画通りに遂行できた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>防災教育学会理事として運営に携わるとともに、第3回学会において座長を務めた。計画していた社会的活動は遂行できた。</p>					
今後の課題					
<p>文部科学省より中学校教諭一種免許状（理科）の新課程が認可された。それに伴うカリキュラム変更により、新入生と在学生の2つのカリキュラムが同時進行する。それらの実施がスムーズに行われるよう学科運営を注視する。また来年度より開講される「防災教育実践」、「チーム学校論」等の地域防災スペシャリスト資格にかかる新規科目が体系化できるように計画立案する。</p> <p>2023年度科研費基盤教育研究（c）「教育DXに基づく非認知能力も含めた汎用的「学修成果」可視化法の開発」に採択されたので計画調書に従って研究を進める。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	多田 琴子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員 就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	保育内容（言葉） 子どもと言葉 保育の計画と評価 保育指導法 教育実習指導 幼稚園実習 卒業研究Ⅳ 他				
担当科目コマ数	13.80				
本年度の課題					
<p>① コロナ禍の「保育者としての職能形成」に向け、附属幼稚園と連携して「空きコマボランティア」の充実を図る。</p> <p>② 附属ときわ幼稚園のキッズクラブで行っている「子ども哲学」を継続し、幼小連携実践の課題を見出す。</p>					
本年度の目標					
<p>①保育者養成コース2年学生対象の「空きコマボランティア」を継続して実施し、学生の「保育者としての職能形成」にボランティア活動内容の何が寄与するかを探りたい。</p> <p>②令和5年度日本保育学会シンポジウム発表に向けて、子ども哲学を踏まえて幼小連携の実践をまとめ、今後の幼小連携への提言を行う。</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>①附属ときわ幼稚園と相互連携を取り、2年生保育者養成コースに対して「年間10回」の空きコマボランティアを行い、3年生の実習（保育所・幼稚園・社会福祉施設）前の体験的学習を行った。</p> <p>②附属ときわ幼稚園キッズクラブでの「哲学しよう」と姫路市の教員や保育者と実践している「子ども哲学p4c」を通して見出した課題を基に、令和5年度日本保育学会シンポジウム発表資料を作り終えている。</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属ときわ幼稚園とのコラボ事業「キッズクラブ」のコーディネート他 ・姫路市立幼稚園園内研修（高浜幼3回/大塩幼1回/水上幼3回） ・市川町立認定こども園職員研修 講師（4回） ・西脇市保育士等キャリアアップ研修 講師（保育実践分野4回） ・姫路市立教育総合センター自主研修会（幼稚園・子ども哲学p4c）（毎月2回） ・神戸女子大学（保育の計画と評価）前期非常勤講師 ・兵庫教育大学（保育内容言葉論）後期非常勤講師 					
今後の課題					
なし					

個人年間活動報告書

教員名	瀬川和子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会参事				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	基礎音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教科指導法（音楽）、小学校音楽、ピアノ実践奏法、保育・教育課題研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ・Ⅳ				
担当科目コマ数	12.60				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育：小免関連科目の教材と教授法に関する検討、遠隔授業方法の開発 ・研究：研究時間の捻出と継続的な取組み。遠隔授業方法に関する取組 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討すること。担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探す。 ・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>E1は4割以上の初心者も含め、音楽理論の理解に基づいた技能習得と音楽表現の向上を目指した指導を徹底することにより、読譜力も徐々についてきている。E2以降は各自の進路に応じた指導を心がけることでE4の就職成果に結びつけた。教科指導法（音楽）においても学力の3要素を意識した指導法を修得させる授業展開とした。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R.4年9月附属ときわ幼稚園5歳児 ときわキッズクラブ講師 ・R.4年9月神戸常盤女子高等学校保育コース1年・2年（保育進学基礎）講師 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ初心者が増加傾向にあるため、基礎音楽Ⅰ～Ⅲの知識・技能の習熟度の向上 また現場で必要とされる弾き歌いの向上 ・小免関連科目の教材研究ならびに教授法の改善 					

個人年間活動報告書

教員名	藤本由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	基礎図画工作Ⅰ・Ⅱ、子どもと造形表現、小学校図画工作、保育内容（造形表現）、教科指導法（図画工作）、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ				
担当科目コマ数	13.93				
本年度の課題					
新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容の充実 8期生のキャリア支援 作品制作と発表					
本年度の目標					
新カリキュラムの完成年度に向かって、授業のさらなる充実を図った。 8期生の希望進路達成への支援（模擬面接、面談、卒業生・実習園への紹介・巡回等）を行った。 兵庫二紀展、二紀展、春季二紀展、藤本由佳利個展への作品制作と発表を行った。 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 2年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 指導法、内容系の授業は、模擬授業・模擬保育の実施に向けた補習時間を多くとった。 基礎授業（実技）においては、同授業担当の非常勤講師（3年目）への助言をこまめに行い授業の充実を図った。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 令和4年度兵庫二紀展 企画・運営（2022年4月） 兵庫県立美術館 附属幼稚園 「キッズクラブ」 幼稚園児への造形活動の企画・支援					
今後の課題					
定年退職によりなし					

個人年間活動報告書

教員名	中田尚美	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書委員会委員、個人情報保護委員会委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	保育原理、保育内容総論、保育者論、保育内容（人間関係）、保育・教育メソッド、子どもと人間関係、大学道場miniゼミA、保育・教育課題研究1、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究1、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	12.77				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を担当授業に反映し、授業の充実を図る。 ・研究の推進 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の精選・授業方法の工夫 ・テーマ別研究実績の発表 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>研究内容を反映した指導資料を作成するとともに、授業内容を全面的に見直した。また3年担任として学生支援と理解に努めた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p>					
今後の課題					
学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索を続ける。					

個人年間活動報告書

教員名	中西利恵	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	紀要委員会（委員長）、E科就職委員会、E科臨地実習委員会、こども教育学科改革検討委員会、				
クラス担任	2年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅱ、保育内容（健康）、子どもと健康、教職実践演習（幼稚園・小学校）、保育・教育課題研究Ⅲ、保育実践演習、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、学校保健（N科）、大学道場miniゼミ				
担当科目コマ数	11.03				
本年度の課題					
<p>(1) こども教育学科将来構想内のエナジープランから特に以下の3つについて取り組む。</p> <p>① ときわの里山の学習環境としての活用方法の開発、教材研究、教育方法の提案</p> <p>② 子育てひろば3箇所及び、附属幼稚園との連携のあり方の再構築</p> <p>③ 正統的周辺参加型学習システム構築に向けた試験的実践</p> <p>(2) 認定絵本土養成講座の実施方法の確立と新資格活用方法の検討</p>					
本年度の目標					
<p>(1)-①ときわの里山が有する教材を調査し、教材研究を進める。</p> <p>(1)-②昨年度試行した「ときわの森おはなしとあそびのひろば」との連動の可能性や、子育てひろばでの学生の実習のあり方等について検討し、新たな連携方法を提案する。</p> <p>(1)-③学年縦割りでの活動プログラムの実施を検討する。</p> <p>(2) 開設初年度の講座運営を通して課題を抽出し、今後のより良い活用につなぐ。</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KITクニヅカ等子育てひろばでの実習実施方法について改善を図った。 ・Energyプランの実現に向け、準正課でのパイロットプランを立案し実施した。 ・保育者養成コース学生の専門性向上をめざし、認定絵本土養成講座の申請を行った。 <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：①保育者養成課程で実践力を高める教育方法の研究（科研費研究含む） ②子どものための絵本環境—子どもの育ち・発達と絵本の活用方法</p> <p>研究の現状：①科研費研究については、コロナ禍により当初の予定を変更し、新たな方法を追加し、保護者支援実践力の評価項目の抽出を行った。 ②卒業研究活動において、絵本等を活用した実践事例集を作成した。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照</p> <p>学会発表（1回） 論文（1編） 著書（0冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校で講義担当。 ・兵庫県教育委員会特別非常勤制度により兵庫県立篠山鳳鳴高校で講義・実習指導担当 					

<ul style="list-style-type: none"> ・八尾市子ども・子育て会議委員 委員長 ・松原市子ども・子育て会議委員 副委員長 ・高石市子ども・子育て会議委員 副委員長 ・三田市子ども審議会委員 副委員長 ・松原市児童福祉審議会委員 ・寝屋川市児童福祉審議会委員 ・湊川短期大学附属キッズポート保育園及び、ぽるとこども園第三者評価委員 ・「令和3年度 厚生労働省主催 初任主任保育士研修」講師 ・「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」学識経験者として助言・講評
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・新課程の稼働に伴い、策定した学科の改革案（エナジープラン）を着実に実現するための具体的実施計画策定及び実践に取り組む。 ・特に、新たな学習環境の開発、正統的周辺参加型学習システム構築と同時に科目間連携の実施方法の提案及び実施に取り組む。

個人年間活動報告書

教員名	牛頭 哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	<ul style="list-style-type: none"> ・こども教育学科教員養成コース長・広報委員会委員長・研究倫理委員会副委員長・保護者のためのオープンキャンパス委員長・就職委員 ・教職支援センター委員・臨地実習委員・KITテクニカルアドバイザー 				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	アカデミックライティング（基盤）基礎研究演習Ⅰ（E1）基礎研究演習Ⅱ（E2）教科指導法国語（E3）総合的な学習の時間の指導法（E3）教育実習指導（E3）教育実習（小学校）（E3）教科指導法特論Ⅰ（E3）保育教育課題研究Ⅲ（E3）卒業研究（E3.E4）教職実践演習（E4）教科指導法特論Ⅱ（E4）教科指導法特論Ⅲ（E4）インターンシップB（E4）総合的な学習の時間の指導法（N2）				
担当科目コマ数	10, 13				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔と対面のハイブリッド授業により、学生の学ぶ意欲を喚起するカリキュラムを構築する。 ● 子育て総合支援施設 KIT の利用児童が増加したことにより、学生の実習の在り方を再構築する。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校教員養成教育における学力向上と実践力向上を図る。 ● 子育て総合支援施設 KIT における実習カリキュラムの構築と運用 					
主な活動内容・自己評価					

1)教育活動
<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業と対面授業のハイブリッド型授業について様々な方法を試行し、学生の学修意欲を高める実践に努めた。 ・子育て総合支援施設KIT「てらこや」における実習カリキュラムを再構築した。放課後の学習支援に関して、学生の創意工夫が生きるカリキュラムの可能性を探った。
2)研究活動
「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
3)社会的活動等
神戸市立五位ノ池小学校学校運営協議会委員として学校運営に関する指導助言を行った。
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業 DATA のエビデンスに基づいた授業改善。 ● 令和4年度に採択された科研について、2年目の研究計画を遂行する。 ● 子育て総合支援施設 KIT での実習の在り方を更に充実させる。

個人年間活動報告書

教員名	橋本好市	所属学科等	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、E科就職委員会委員長、E科臨地実習委員会委員、E科将来構想委員会委員、大学院協定校交渉等担当（兵庫教育大学学部・教職大学院接続部会委員）				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	野球部		
担当科目名	大学道場miniゼミB（基盤1年）・基礎研究演習（E1・E2）・保育教育課題研究（E2・E3）・社会福祉（E1）・子ども家庭福祉（E1）・障害者福祉特論（E2）・卒業研究（E3）・卒業研究（E4）・保育実習指導Ⅰ（E3）・保育実習Ⅰ（E3）・保育実習指導Ⅲ（E4）・保育実習Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	10. 23				
本年度の課題					
<p>近隣保育士養成校は軒並み定員割れが常態化しつつあり、本学科も定員充足維持に向けて、当該コース教員総力で保育者希望受験生の掘り起こしに努めていかなければならない。</p> <p>学生及び保護者が、大学選択・入学決定の際に重要視する要素に就職率がある。入口を盤石とするためには出口戦略も並行して重要な鍵を握る。したがって、学生募集と就職率とのリンクを考慮し、公立・大手法人への内定率を広報にも活かしていきたい。</p> <p>学内業務・個人研究（科研のまとめ）・社会的活動との両立を心掛けていく。</p>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者養成コースのロコミ評価が高まるように、学生ケア、卒業時満足度向上へ努める。 ・保育者養成コースのあり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況、持続性の観点から、その特性について検討していく。 					

<ul style="list-style-type: none"> ・公務員、大手法人への内定率の向上を継続する（特に男子学生の進路拡充）。 ・科研のまとめを活かして研究成果の一部として「障害児保育」関係書籍を執筆する。
<p>主な活動内容</p>
<p>1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉施設関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組みを図っている。 ・県内優良社会福祉法人との良好な関係を維持し、本学科学生及び本学への利益の一助となるよう尽力している。 ・学生のニーズに適した教授方法（遠隔講義・資料の工夫）、manabaの活用（資料提供）、最新情報を盛り込む等、学生の理解度と定着への工夫を図ったが、授業評価向上への効果は小さかった。 ・学生の将来生活の安定性という観点から有益な職域である警察・消防等への就職支援にも力点を置いた指導に努めた（今年度：大阪府警に内定）。 ・8期生も求職者内定率100%の結果となり、公立保育士及び教諭合格者が増加した。一般企業への希望者が増加傾向にある。 <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学 大学院 人間発達環境学研究科 非常勤講師（臨床心理実践演習） ・社会福祉法人 うるま福社会 評議員 ・社会福祉法人 白百合学園 法人顧問 ・社会福祉法人 陽気会 評議員 ・社会福祉法人 みかり会 評議員 ・尼崎市保育所設置法人等選定委員会 委員長 ・尼崎市立保育所移管法人選定委員会 副委員長 ・日本保育者養成教育学会査読委員 ・日本子ども家庭福祉学会査読委員 ・兵庫県施設保育士養成協議会 会長 ・文部科学省委託事業（学校法人三幸学園）実施委員 他
<p>今後の課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・定員回復に向けて、卒業時の学生満足度向上、希望職種への内定確保、養成コースの特性を高める、学生ケア等の充実と検討を継続して取り組んでいきたい。そのためには、保護者、学生間の SNS 上の口コミによる本学部の評価が拡散されていく傾向が強いことを考慮し、良い評価を獲得できるようコース教員一丸となりコース運営を心掛けていく。 ・社会福祉施設関係連盟組織及び県内優良社会福祉法人との良好な関係を維持し、本学科学生及び本学への利益の一助となるよう尽力していく。 ・就職率は、学生の大学選択として重要なキーワードとなるため、公務員及び大手社会福祉法人等への内定率をさらに向上できるよう学生指導等を強化しつつ、かつ、一般企業等への就職希望者のためにキャリア支援課と連携を図りつつ支援していく。

<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度と定着への工夫を図ったが、授業評価向上への効果は小さかった。今後もmanaba等を活用しつつ、講義内容を精査し、社会的動向に応じた内容を提供していく。 ・科研を終えたことを踏まえ、そのまとめとしての書籍発行（「インクルーシブ保育」みらい出版）及び、次の研究課題を見極めるために文献研究、調査研究、海外視察（「保育現場にみるICTの活用」等、鋭意遂行していきたい。

個人年間活動報告書

教員名	山下敦子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員長、臨地実習委員副委員長、ときわ教育推進機構員、自己点検・評価委員会委員、教職支援センター委員、E科将来構想委員会委員				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、教職論、国語、インターンシップA、総合的な学習の時間の指導法、保育・教育課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、教職実践演習、教育実習、教育実習指導、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、介護等体験、教科指導法特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、アカデミックライティング				
担当科目コマ数	13. 53				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔授業において学生の学習意欲の向上や知識・技能（読解力、表現力）のさらなる定着を目指した授業プログラムを構築する。 ● 子育て総合支援施設KITと授業との連携を密にする。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ● RSTを実施し、学生の読解表現力の育成を目指した授業プログラム実施する。 ● 学生の職業選択や実習に必要な資質・能力を向上させるKITと授業の連携を行う。 ● 小学校教員を目指す学生について資質の向上と的確な就職指導を行う。 ● 入学前教育やリメディアル教育の具体的な実施を図る。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RSTを実施し、学生の読解表現力の傾向とつまずきを分析し授業を開発した。 ● KIT実習と授業とを連携し学生の進路決定、教育実習等に資する実践に努めた。学生の意識調査では「役に立った」が88%であった。 ● 全学年の教員養成コースの学生に対して、適時進路相談などを実施した。 ● 入学前教育ではmanabaを使いレポートの添削等を行い、学習意欲の向上に努めた。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>神戸こども本の森開館準備委員会 委員長 神戸市立駒ヶ林小学校の学校運営協議会委員、明石市教育委員会教育研究所スーパ</p>					

<p>ーバイザー</p> <p>大阪府教育庁、大阪府教育委員会、枚方市教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会等、各教育委員会と連携し、研修会講師や指導助言を行なった。</p>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生の読解表現力の育成を目指した授業プログラムのさらなる開発を行う。 ● 教職を志望する学生への適切、効果的な指導法や体制を充実させる。

個人年間活動報告書

教員名	笹井隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会、合否判定部会、入試問題作成部会、子育て総合支援施設KIT連携部 図書委員会副委員長				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、人類と地球環境、理科、地球と環境、コンピュータ演習Ⅱ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、生き物と自然の力、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、保育実践演習 大学道場ミニゼミ				
担当科目コマ数	11.43				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学内業務に責任を持って取り組む。 ・学生が自然との触れ合いを体験することにより、現場での課外活動等で活用できるよう資質を高める。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・観察会や自然体験プログラム(キーナの森)などの自然体験の機会を増やす。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生担任として、学生生活、幼稚園等の見学、就職への準備等に取り組んだ。 ・学科内の卒業研究担当としてゼミの振り分け等を行った。 ・学内では裏山を使って自然環境づくり等の体験をすることができた。 ・学外では宝塚市少年自然の家での「西谷のむし観察会」に3名の学生が参加した。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>20220326 ギフチョウ観察会 宝塚市自然保護協会 スタッフ</p> <p>20220526 カブトムシ幼虫観察ペットボトル作成 KIT こども教育学科学生3名参加</p> <p>20220730 ライトトラップ観察会 キーナの森 ひょうご環境創造協会</p> <p>20220902 北六甲幼稚園 講演会 講師</p>					

20220907	六甲藤原台幼稚園 講演会 講師
20220909	六甲幼稚園 生きもの観察会（有馬富士公園） 講師
20220910	宝塚市「西谷のむし観察会」 講師 宝塚市自然保護協会 こども教育学科学生3名参加
20220913	育英幼稚園 講演会 講師
今後の課題	
・学生の、様々な自然体験をサポートする。	

個人年間活動報告書

教員名	脇本聡美	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会副委員長、国際交流センター				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、国際理解、小学校英語、教科指導法（外国語）、卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、教科指導法特論Ⅱ・Ⅲ、保育・教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	12.87				
本年度の課題					
学生が主体的に学べる授業の在り方を検討すること 小学校英語教育に関する研究を進めること					
本年度の目標					
アクティブラーニングを取り入れた授業を実践すること 小学校英語教育をテーマにした研究を論文にまとめること					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 ・学生が考えたり、発信する活動を計画し、授業で実践した。学生が主体的に学ぶ活動の充実を図った。 ・英語検定試験（英検）を受検する学生に面接練習などの個人指導を行った					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 ・実用英語検定面接委員 ・附属幼稚園において英語プログラムを実施した ・公開講座において講師を務めた					
今後の課題					
引き続き、学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること 小学校英語教育をテーマとした新たな研究を計画し進めること					

個人年間活動報告書

教員名	近藤みづき	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員会（副委員長）・FAST等企画運営ユニット(委員長)				
クラス担任	2年 主担任	クラブ顧問	テニス部・ダンス部		
担当科目名	健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅲ、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、基礎体育、基礎研究演習Ⅱ、子どもと身体表現、小学校体育、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	19.17				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会副委員長として委員長を支え、FAST委員長として支障なく学務を進める。 ・研究データを収集し、個人研究を進める。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションアンケートの満足度を維持する。学園祭を滞りなく実施する。 ・新入生の普通救命士資格取得率を100%にする。 ・収集したデータを整理、分析し個人研究を進める。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>「健康スポーツ科学Ⅱ」では、運動活動量や運動を可視化することにより、知識と実践を組み合わせた授業が展開できた。3年目となる強度「子どもと身体表現」は、令和2年度を上回る評価を得ることができた。また、2年目となる「小学校体育」は、実技実習、指導実習、運動学演習、講義、そしてICTの活用と授業の展開方法を工夫し学生が主体とした授業が継続できた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ運動学会 理事 ・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「体を使って遊ぼう」講師 ・神戸常盤高校オープンスクール（7月）「大学授業体験」講師 ・神戸市立駒ヶ林中学校 市民救命士講習（10月）指導員 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・各員会の委員長、副委員長として引き続き学務を支障なく、さらに充実できるよう遂行する。 ・個人研究を推進させるとともに、研究テーマを検討する。 ・充実した授業が展開できるよう授業方法等を工夫する。 					

個人年間活動報告書

教員名	松尾寛子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	こども教育学科臨地実習委員会（委員長）、こども教育学科就職委員会（委員）、入試委員会（委員）、入試委員会合否判定部員（委員）、子育て総合支援施設KIT連携部（委員）				
クラス担任	4年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障害児の理解と支援Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、基礎研究演習Ⅰ、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、保育教育課題研究Ⅱ、保育教育課題研究Ⅲ				
担当科目コマ数	12.80				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・manabaの活用方法の充実を図る。 ・ゼミ生を中心として、保育所や認定こども園の場でゼミ活動できるようにする。 ・臨機応変な学内業務に対応できるよう、時間の有効活用を考える。 ・学内の業務に支障が無いよう、社会的活動を行い、研究の予備調査を進める。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・manabaでの提出物の管理 ・複数個所の保育現場におけるゼミ活動実施 ・入試業務に対する臨機応変な対応 ・研究活動の遂行 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>今年度のmanabaの活用は、昨年度や一昨年度の反省を生かして提出物を中心として実施した。学生の手書きへの負担軽減や提出物管理に関する軽減もでき効率的であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について、昨年度に引き続き、ゼミの学生を中心として学外活動も取り入れた。卒業研究においては、就職活動への支援も並行して行うため、早期からの卒論指導を行った。学生には提出目標などを提示し、来学させたいうえで、提出はメールで行い、添削もメールで行うなど、ゼミの中では、学生と論文詳細について口頭で指導を行うことができ、学生自身の時間の時間有効活用も考え実施することができた。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 研究テーマ：「子どもの学びを保障するインクルーシブ保育方法について」 研究の現状：尼崎市市立保育所・八尾市民間保育所・認定こども園への障害児巡回指導年間20か園程度、100人程度の支援を必要とする子どもへの具体的な関わり方について、保育者に指導助言を行っている。その中から保育者がどのようなところに困り感</p>					

<p>を持ちながら保育を行っているかについて調査継続中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川西市民間保育園・認定こども園、西脇市民間認定こども園の保育指導を実施した。一般的な保育活動の中における支援を必要とする子どもに対する保育者の保育に対する困り感について調査を開始した。
<p>3)社会的活動等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 八尾市私立保育所巡回指導 2. 尼崎市立保育所障害児保育巡回指導 3. 西脇就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員（訪問調査） 4. 兵庫県社会福祉協議会/障害児保育ゼミ研修 5. 西脇市子ども子育て会議委員 6. 四恩こども園理事 7. 川西市保育指導
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き manaba の活用方法の充実を図る。出席管理も含めて。 ・ゼミ生を中心として、5 か所程度の保育所や認定こども園の場でゼミ活動できるようにする。 ・入試業務の臨機応変遂行。 ・社会的活動を行い、科研の申請を含め研究を進める。

個人年間活動報告書

教員名	柳原 利佳子	所属学科等	こども教育	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員・就職委員・臨地実習委員・自己点検・評価委員など，保育者養成コース				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ，発達心理学，カウンセリングの技法，子どもの理解と援助，教育心理学，教職実践演習（幼稚園・小学校），卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ，卒業研究Ⅳ，生涯発達論				
担当科目コマ数	12. 27				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・操作に慣れてきた manaba を対面授業の中でも効果的に用いる方法を探る。 ・個人研究活動を進める。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中や事後学習の時間に respon と manaba プロジェクトを活用して双方向授業を行う。 ・女性の生き方や役割期待に関する調査研究を実施する。 					
主な活動内容・自己評価					

<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任として面接・指導などの機会を利用して学生理解に努めた。 ・教務委員として個別対応が必要な学生への履修相談・指導を行った。 ・就職委員として保育者養成コースの学生に対する模擬面接の面接官を担当した。 ・図書館の活用を促せるような取り組みを1年生ゼミの中で行い、manabaのプロジェクトを活用して、グループワークを行った。講義や演習の授業においても、responによる意見提出、及びその場で学生と共有するなどの活用をした。しかし、今年度末で軌道に乗ってきたresponの使用が終了することとなり、代わる新たな方法を見つける必要が出てきた。
<p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p>
<p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武庫川女子大学へ出講 ・7月：東灘高等学校 高大連携講座 対人援助職のための発達学～人間関係の形成 ・12月：西宮甲山高校 進路指導ガイダンス（保育・幼児教育）
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・responに代わる方法で授業を進める方法を模索する。 ・女性のライフプランと多重役割に関する研究を進める。

個人年間活動報告書

教員名	戸川晃子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員、学術教育推進委員、子育て支援センターKIT運営委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎音楽Ⅰ、基礎音楽Ⅱ、基礎音楽Ⅲ、保育内容（音楽表現）、子どもと音楽表現、小学校音楽、ピアノ実践奏法、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	15.33				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を行い、学生の学びにつなげる授業方法を考察する。 ・科研費の研究を継続的に遂行する。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究を続けている効率的かつ効果的にピアノ演奏技術、表現力を高める指導法を授業、採用試験対策でいかし、学生の確実な演奏技術向上に役立てる。 ・研究を遂行する。 					
主な活動内容・自己評価					

<p>1)教育活動</p> <p>特に昨年度開講の子どもと音楽表現について、今年度はより授業内容を充実させた。その結果授業評価も向上した。また、採用試験直前に発表される課題曲についても学生に短期間で効果的に演奏向上する指導を行い、合格に寄与した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園トキワキッズ講師2回 ・神戸常盤大学公開講座講師
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究データを収集する。 ・教材研究を行い、授業をより充実したものにする。 ・音楽実技のある採用試験のための指導を効率的に行う。

個人年間活動報告書

教員名	大城 亜水	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員・副委員長、臨地実習委員、子育て総合施設KIT連携部委員、地域交流センター地域貢献事業部委員、学生委員				
クラス担任	1年ABクラス	クラブ顧問	軽音楽部		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、まなぶるⅠ・Ⅱ、情報基礎、情報メディア演習(E科,N科)、地域との協働A、子ども家庭支援論、子育て支援、保育実践演習、卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保育・教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外研修、家族と社会(看護通信)				
担当科目コマ数	18.87				
本年度の課題					
KITと学生の連携 (KITと学生のマッチング体制の構築と教育的効果検証)					
本年度の目標					
本年度の課題内容を研究テーマに、本学紀要の投稿論文として1論文以上投稿する。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動支援および進路相談、履歴書や論文等の添削指導 ・公立保育士・幼稚園教諭および公務員試験の一般教養の学習支援 ・「まなぶる」の授業コンテンツの作成 					

2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照
3)社会的活動等 【講座・セミナー】 少子化対策—少子化の動向とワーク・ライフ・バランスなどの政策的課題／大城亜水 (神戸常盤大学)／大阪労働大学講座(令和元年度)／2022年12月
今後の課題 教育活動や校務に支障がないことを確認しながら、教育研究活動および社会貢献活動、とくに新規外部資金(研究助成)の調達について取り組みたい。

個人年間活動報告書

教員名	京極 重智	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、神戸常盤地域交流センター委員、教職支援センター委員、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	2年(教員養成コース)	クラブ顧問	ソフトテニス部		
担当科目名	特別活動の指導法、基礎研究演習Ⅱ、地域との協働B、教育の思想と歴史、道徳教育の理論と実践、道徳教育と特別活動論、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅰ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教職実践演習				
担当科目コマ数	15.67				
本年度の課題 教育に関して、教員採用試験への合格と教師として働くことに直結する授業内容に改善する。また、研究に関して、査読付きの学術誌への投稿を目指す。					
本年度の目標 教育に関して、神戸常盤大学の学生の実態に即した授業を行うことを目標とする。研究に関して、具体的な目標として学会発表1回、論文1編とする。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 単独でもつ科目に関しては、多くの科目で授業評価が平均値以上であった。また今年度は例年よりも多い割合の教員採用正規合格者数となった。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					

3)社会的活動等

附属幼稚園での哲学対話の実施（キッズクラブ）、高校での複数回の出張講義

今後の課題

教育に関して、正課のみならず、準正課からも学生の教員養成支援ができるよう改善につとめる。また、研究に関して、時間を確保しながらまずは学内紀要での投稿を目指す。

個人年間活動報告書

教員名	吉田幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、学園一体化推進協議会委員、運営委員会委員、学長会議委員 合否判定部会委員、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生士論1、学びの基礎、早期臨地実習、健康スポーツ科学I、 全身の健康と口腔科学、栄養指導法、歯科予防処置演習BII、歯科衛生 過程演習、歯科医療と法律・制度、口腔保健特論I、口腔保健特論II こどもの歯と健康 (E科)				
担当科目コマ数	7. 37				
本年度の課題					
1. 定員を充足する入学者数を確保する。					
本年度の目標					
1. オープンキャンパス、入試ガイダンス、大学説明会等の入試広報活動に積極的に取り 組む。 2. 4年制教育課程の円滑な進行を推進する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・入試広報活動に注力したが、70名の入学定員を満たすことが出来なかった。 ・4年制教育課程の円滑な進行のために学科教授会13回、学科会議12回、臨地実習説明 会2回を開催し、授業内容及び臨床実習内容について教員（専任及び非常勤）間で情報 共有をおこなった。 ・本年度は歯科診療所をリニューアルし一般歯科診療が実施できる施設とした。この事 で他校にはない教育である学内歯科診療所における臨地実習が可能となった。また、専 任教員が臨地実習も指導できる事になり、本学の教育に付加価値がついたと考える。					
2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」および「リサーチマップ」参照					
3) 社会的活動等					
① 日本歯科衛生学会会長 「第17回日本歯科衛生学会学術大会」のシンポジウムにおいて座長を務めた					
② 日本健康体力栄養学会副会長 「第30回日本健康体力栄養学会大会」の大会長を務めた					
③ 日本口腔ケア学会評議員					
④ 日本栄養・食糧学会近畿支部参与					
今後の課題					
1. 定員を充足する入学者数を確保する。 2. 4年制教育におけるワークキャリアデザイン科目の充実を図る。					

個人年間活動報告書

教員名	江崎ひろみ	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	紀要委員会、ハラスメント防止対策委員会、臨地実習委員会副委員長				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	学びの基礎、対人援助論、対人援助技術演習、歯科衛生士論1、歯科診療補助論、歯科診療の補助演習、歯科診療補助技術Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、口腔保健衛生学実習Ⅱ、早期臨地実習				
担当科目コマ数	6. 17				
本年度の課題					
4年制臨地実習の構築、運営調整方法の確立 コメディカル対人援助技術教育の構築と評価 テーマ別研究費採択、研究計画を展開し科研費採択を目指す					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> ① 早期臨地実習、基礎臨地実習の実施と評価 ② 応用・発展臨地実習の構築と運営調整方法の確立 ③ M・R・O科における対人援助技術教育、歯科衛生過程教育の構築と評価 ④ クラス担任として、学生の円滑な大学生活・教育の支援を行う。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M科、R科におけるコメディカル対人援助技術教育の構築、学年別、職種別に求められる内容にそった教育内容の実施と評価（学生による授業評価結果参照） ・4年制における歯科衛生臨地実習の構築、臨地実習説明会の開催・資料作成 ・1年生Bクラス担任として、学生相談・指導にあたる。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照 2023年度科研費採択 講師研究支援、テーマ別研究費・科研費申請相談支援</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常盤健康フェスタにて口腔機能測定評価 ・日本健康体力栄養学会大会運営委員、事務局担当 					
今後の課題					
<p>前期市民公開講座担当し、広く口腔保健教育の情報発信を行う。</p> <p>紀要発行では、適正な査読、査読者、投稿者との調整に努め、より多くの論文投稿を目指す。</p> <p>ハラスメント委員として、窓口を広く、気軽に相談できる場と空間、時間を提供する。</p> <p>コメディカル対人援助技術教育、実践的看護技術を臨地実習枠に組み込み歯科衛生士の観察技術力向上を目指す方途を検討する。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	福田昌代	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員長 ときわ教育推進機構委員 国家試験委員会委員長 就職委員会委員				
クラス担任	3年生Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	口腔健康支援総論、口腔健康支援各論、学びの基礎、大学道場miniゼミA、早期臨地実習、歯科保健指導演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、歯科衛生過程演習、口腔保健特論Ⅱ				
担当科目コマ数	13.87				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・四大と短大のカリキュラムに混乱が生じないように運用する。 ・国家試験2年連続100%合格に向け、夏休みから学修モチベーションをあげ、成績不振者の学修力向上に向け対策を検討する。 ・コロナ禍において、フィールドでの調査が全くできていないため、方法を変更して研究調査を行う。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格100% ・科学研究の遂行 ・口腔保健学科の短大と大学のスムーズな運用 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、感染対策に気を付けながら対面授業を行うことができ、ほぼ通常の授業を実施できた。4年制の1年生に対する新たな授業についても資料を作成し基礎的な学修ができるように工夫し、授業評価は良好であった。 ・国家試験対策は、対象の3年生がコロナ禍入学の学生だったこともあり、1-2年次の基本的な知識が不足している者が多く、国家試験対策の模擬試験でなかなか点数が伸びなかった。そのため成績不良の学生については、11月に特別補講を実施した。また成績不振者については保護者を交えて面談を実施し、家庭の協力も含め得ながら国家試験対策を進めた。最後の2週間は成績不振の学生を対象にZOOMを使用した少人数指導を行った。結果は、74名受験し73名合格、1名不合格であった(98.6%)。不合格者1名は過年度生で欠席が多く精神的な対策ができず不合格になったと考えている。来年度は短大の閉校を伴うため、在籍している学生82名全員を卒業に導くことができるようにさらなる学習支援が必要であると考えます。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①兵庫県立明石南高校、高大連携授業担当 ②全国大学歯科衛生士協議会理事 ③日本健康体力栄養学会評議員、④神戸大学コグニケアプログラム主催健康セミナー 					

講師
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・四大と短大のカリキュラムを確実に運用する。 ・短期大学部閉校のため、短大生全員が卒業し国家試験に合格できるように学修支援を行う。 ・科学研究の研究調査を積極的に行う。 ・教務委員長として、大学の教務関連の運用について尽力する。

個人年間活動報告書

教員名	森谷徳文	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会, 臨地実習委員会, 研究推進センター, 口腔保健研究センター, 神戸常盤大学歯科診療所				
クラス担任	短期大学部, 2A	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床歯科III, 生化学・栄養学, 歯科理工学, 学びの基礎, 大学道場miniゼミB, 口腔保健特論1				
担当科目コマ数	7. 50				
本年度の課題					
2022年度新任のため前年度実績なし					
本年度の目標					
<p>① 講義において内容の改善と, 学生の自己学習時間を増加させるための工夫を行い, 「学生による授業評価調査」での「I 学生自身」および「III 授業方法」の平均4.0以上</p> <p>② 歯科診療所で, 再来患者1日平均5人以上</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動 神戸常盤地域交流センター, 地域貢献事業部, R4後期公開講座, 「口腔外科ってなに?」(オンデマンド)で講演</p> <p>2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等 歯科検診, 歯科診療, KOBE TOKIWA健康ふれあいフェスタ</p>					
今後の課題					

① 講義内容の改善と発展
② 歯科診療所活動の安定と発展
上記①②の課題に対する目標を「本年度の目標」項目に記載した

個人年間活動報告書

教員名	山城 圭介	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ推進機構・副機構長，歯科診療所・副所長，入試委員				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学，病原微生物・免疫学，miniゼミB，学びの基礎，人体のふしぎ，歯科医療と法律・制度，健康科学総論，検体採取安全管理演習，口腔保健特論I				
担当科目コマ数	4. 27				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療所の運営 ・授業，実習の充実 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療所での治療，学生教育を充実させたものとするための準備を行う ・良質な授業コンテンツを作成し，学生が理解しやすいよう工夫する 					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
本年度は対面授業が主であった。直接質問ができる，時間管理ができるなどのメリットがある一方，オンライン授業で可能であった繰り返しの視聴などはできなかった。					
2)研究活動					
「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
研究テーマ：AIを用いた歯周病の診断と進行予測に向けて					
—口腔内細菌叢の次世代シーケンスデータを用いた多変量解析—					
研究の現状：日本歯周病学会で研究成果を報告					
学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）					
3)社会的活動等					
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県歯科衛生士会卒後研修必修プログラム「研究方法論」令和4年11月27日 ・令和4年度 全国大学保健管理協会近畿地方部会 保健師・看護師班 第31回兵庫地区研修会「歯周病と全身の関わり」令和4年12月8日 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療所での運営を安定したものとする ・4年制に移行したことにより増加した授業科目での良質な講義 ・歯周病関連研究の推進 					

個人年間活動報告書

教員名	上原弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会副委員長、合否判定部会副委員長、臨地実習委員会副委員長、神戸常盤大学歯科診療所委員				
クラス担任	2年生 主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、歯科診療の補助演習、歯科診療補助演習Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、医療安全、臨床検査学、口腔保健特論Ⅱ、診療補助実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、学びの基礎、大学道場ミニゼミB、放射線治療技術学Ⅰ（R科）、IPW論（R科）				
担当科目コマ数	13. 17				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習意欲を高める授業方法を検討する ・歯科衛生士リカレント教育の成果をまとめ、カリキュラムの見直しを図る 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題・事後課題の提示、授業ごとのまとめの小テストを実施し、授業への積極的な参加を促す ・歯科衛生士リカレント教育について内容を精査し、新しいカリキュラムを構築する 					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <p>授業の事前・事後学習を自主的におこなえるよう、科目ごとのノートを作成させ、全授業終了後に提出させた。学生の取り組み状況には差がみられたが、積極的に学習した学生は授業への前向きな参加態度が見られた。プレ・ポストテストを実施して学生個々の理解度を測り、適時授業内容を見直し解説を加えるなどした。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理 研究の現状：情報・資料の収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会 企画運営委員(公益社団法人日本歯科衛生士会) ・兵庫県歯科衛生士連盟会長 <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市看護大学大学院 慢性看護 ・神戸市医師会看護専門学校 ・兵庫県立総合衛生学院 看護学科定時制／歯科衛生学科 ・阪神シニアカレッジ 健康学科 					
今後の課題					

<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習意欲を高める授業方法を検討する ・歯科衛生士リカレント教育の成果をまとめ、カリキュラムの見直しを図る

個人年間活動報告書

教員名	澤田美佐緒	所属学科等	口腔保健	職名	講師
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員、就職委員、臨地実習委員				
クラス担任	3年 Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療の補助演習、歯科診療補助演習Ⅱ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	13.77				
本年度の課題					
教育活動：学生の学習に対する意欲を引き出すこと					
研究活動：合同実習後の質問紙調査から多職種連携に関する課題を検討する					
本年度の目標					
教育活動：演習の振り返りで理解が進むように、レポートをできるだけ早く返却する。 授業内容の理解が難しい様子が見受けられる学生には、その場で助言をおこなう。					
研究活動：高齢者施設に関する調査では、学会発表をおこなう。					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動					
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が興味を持って授業に取り組めるように、できるだけ臨床の具体的な事例を想定した演習を行うことを心がけ、演習後のレポートに記載する項目を細かく提示することで、学習の要点を明確に示した。 ・レポート評価で個々の良い点、修正点についてコメントを記載し、改善点がわかりやすいようにした。授業評価では丁寧に説明された、わかりやすい授業であったと評価を得た。 ・授業直後は理解したようであっても、その知識が定着していないことが多いため、継続した学習に繋がるように工夫を重ねたい。 ・就職委員として学生と面談を行い、個々の興味や将来の方向性、性格を踏まえた就職活動の支援をおこなった。 					
2)研究活動					
「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等					
①太成学院歯科衛生専門学校 特別講義 「高齢者歯科学」 R4.4					
②大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」講師（於：コミスタこうべ） R4.11					
③歯っぴー相談会 R.5.2					
今後の課題					

教育活動：学生の学習意欲が向上する授業方略の検討
 研究活動：専門職連携教育方略の検討、高齢者施設調査結果の分析

個人年間活動報告書

教員名	宮澤 絢子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	図書委員会、国際交流センター、国試対策委員会、臨地実習委員会				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導演習Ⅲ、地域口腔保健支援実習Ⅰ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、総合歯科実習、学びの基礎、口腔保健特論Ⅱ				
担当科目コマ数	9. 30				
本年度の課題					
本年度着任のため設定なし					
本年度の目標					
本年度着任のため設定なし					
主な活動内容・自己評価					
1)教育活動 後期臨地実習の全体振り返りは対面で実施したが、一般公開されているオンラインワークショップで使用するKJ法の作業シートの導入を試みた。学生が事前にmanabaで課題を提出し、Googleドライブ上の共有ワークシートで島分け作業をおこなった。PC上での作業は、学生が手元の作業だけに集中せず、互いの学びや気づきを共有ができていた様子だった。デジタル化により学生の学修成果の分析も容易になるため、今後も継続して活用したいと考える。					
2)研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照					
3)社会的活動等 ・多文化共生に関連する地域住民への支援（国際保健室） ・子育て総合支援施設KITでの歯の相談会「歯っぴー相談会」 ・日本歯科衛生士会 国際協力委員会 副委員長 歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会 企画運営委員長					
今後の課題					
・教育：次年度新規開講する授業にアクティブラーニングを導入し、学生の積極的な授業参加と効果的な学修につなげる。 ・研究：成果発表（代表）、外部研究資金の獲得					

個人年間活動報告書

教員名	室崎 友輔	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	広報委員、地域交流センター（地域貢献事業部）				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	災害とまちづくり、ライフデザイン、コミュニティデザイン、情報基礎、情報メディア演習、プレゼンテーション技法、学びの基礎、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き、まなぶるⅠ、まなぶるⅡ				
担当科目コマ数	9. 93				
本年度の課題					
本年度入職のため、無し					
本年度の目標					
本年度入職のため、無し					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では「情報基礎」「情報メディア演習」「学びの基礎」を新しく担当。1年生（0科）の情報リテラシー、ICTスキル向上のため、実社会で役立つより実践的な内容を取り入れた。 ・O科1年Aクラスの担任として、学生への面談や指導を行った。担当科目に1年生が履修する科目が多いことから、授業を通じて大学での単位取得のルール等を教示。 ・兵庫県委託事業オーラルヘルスアッププロジェクトの担当として、学生とともに年間を通じて活動（イベントへの出展3回、シンポジウムでの発表1回など）を行った。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育、地域防災に関する講演・講座に出講（月2～3回程度） ・テレビ出演（NHKリブラブひょうご）（2回） ・兵庫県防災士会理事長として委員会（神戸市・兵庫県）などへの出席（年4回程度） ・長田区内の地域や活動団体との連携を図るため、各種イベント（ながたお好み焼きセッション、長田で活動する人のためのアクションゼミなど）へ参加 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・実用的な情報リテラシーと ICT スキルを1年から身につけられるよう、「情報基礎」「情報メディア演習」「学びの基礎」「まなぶる」を通じて一貫した教育を行う ・新規授業「ボランティア論」「社会福祉論」のなかで歯科衛生士国試対策（該当部分）を組み込む ・長田区内の地域を対象とした活動（授業など）の実施 					

個人年間活動報告書

教員名	伴仲 謙欣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学術推進課（事務）、遺伝子組換え安全委員（事務）、教育研究推進センター員（事務）、ときわ教育推進機構員（事務）、研究倫理委員、ライフサイエンス研究センター委員（事務）、国際交流センター委員（事務）、遠隔授業サポートチーム				
クラス担任	1年B組	クラブ顧問	なし		
担当科目名	『現代社会学』、『教育社会学』、『地域との協働A』、『まなぶる▶ときわびとI・II（キャリア基礎）』、『安全学』、『教育と人間』、『学びの基礎』、『情報基礎』、『情報メディア演習』、『国際理解』				
担当科目コマ数	6. 27				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度、大学としてonline授業の取り組みが縮小される見込みであるため、過去2年のonline授業に関する知見の維持発展や、それに伴うICTを活用した教育方法の検討が課題である。 ・教育活動と研究活動、その他の活動とのエフォート配分の適正化が課題である。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業の再開に伴い、過去2年の遠隔授業の知見を対面授業に盛り込む（ハイブリッド化）ための試行が目標である（全主担当科目が対象）。 ・教育活動と研究活動、その他の活動とのエフォート配分の適正化を目指した業務効率化（活動時間の明確区分化）。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>過去のonline授業の知見を生かして、すべての主担当科目で対面と遠隔のハイブリッド化を実践した。結果、授業評価が向上したことから、今年度に関しては成功したと考えるが、引き続き継続的な取り組みが必要である。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>2022年9月に公開講座『絵本の可能性を考えよう。』を実施した。</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、ハイブリッド授業（遠隔授業）の可能性を探る。 ・研究環境の整備を行う。 					

個人年間活動報告書

教員名	氏橋 貴子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会、国家試験対策委員会、就職委員会				
クラス担任	3年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習ⅡⅢ	学びの基礎	口腔保健特論Ⅱ		
	歯科理工学演習	診療補助実習Ⅰ			
担当科目コマ数	12・17				
本年度の課題					
<p>歯科理工学演習では歯科材料の基本的な性質や使用方法や歯科材料を実際に取り扱いながら学修できるように指導案を工夫した。また学修した内容を、演習後レポートで振り返り、学修した知識や習得した技術の振り返りができるように演習後レポートを作成した。本年度もこれを継続する。</p>					
本年度の目標					
本年度は学会発表を2回行うことを目標とする。					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>歯科理工学演習では要点をまとめた小テストを作成、実施したところ、学生の理解度が高まり、授業評価でも高評価を得ることができた。</p>					
<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：地域在住高齢者における咀嚼行動と身体機能の関連性</p> <p>研究の現状：昨年度はコロナ禍の影響と対象者が高齢者であることから、測定会が開催出来なかったが、今年度は測定会を1回開催した。</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p>					
<p>3)社会的活動等</p> <p>KIT歯科相談会 (R5.2/3・3/17) もとろく歯科相談会 (R4.5/20・7/1)</p> <p>ノエスタ歯科相談会 (R4.9/2 R5.3/3)</p> <p>市民救命士講習会 神戸市立駒ヶ林中学校 (R4.10.28)</p>					
今後の課題					
来年度も口腔保健学科4年制移行に伴い、新しい科目が開講するため、他科目との連携を取りながら進めていくことを課題とする。					

個人年間活動報告書

教員名	浅枝 麻夢可	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員会委員、入試委員会委員、合否判定部会委員、すこラボ（健康生活研究所）委員、就職委員会委員、臨地実習委員会委員				
クラス担任	3年生Bクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	学びの基礎、歯科衛生過程Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、口腔保健特論Ⅱ、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、子どもの歯と健康、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	1 2. 4				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業（講義・演習）の検討 ・ 外部研究資金の獲得 ・ 学位取得に向けての活動 ・ 研究活動の継続 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果の公表 ・ 授業前後の学修やレポート内容および添削、評価方法の改善 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>対面授業が復活したが、遠隔授業のメリットは残しつつ、対面でしかできないことを徐々に増やし、学生にも教員にも負担なく移行できるよう工夫した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>歯ッピー相談会、公開講座（神戸常盤女子高等学校）、 口腔機能評価（ときわ幼稚園、立花うるま保育園、KOBE TOKIWA健康ふれあいフェスタ）</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業（講義・演習）の検討 ・ 外部研究資金の獲得 ・ 学位取得に向けての活動 ・ 研究活動の継続 					

個人年間活動報告書

教員名	金川 治美	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	課程長・教授
委嘱委員・職務	通信教育委員 臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔授業の評価結果を踏まえて、対面授業内容と方法に反映する。学生の学習に対する満足度を向上させ、モチベーション高める。 ・ 本課程での教育成果のアウトプット資料として、全卒業生に対する調査実施の準備をする。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価内容が向上する。 ・ 看護2年課程（通信制）での教育の現状や研究について文献検討をする。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>今年度は、1年次開講の概論スクーリング及び損お互の実習スクーリングは対面授業で実施ができた。コロナ感染などが原因で対面授業に参加できない学生のために、昨年度実施した遠隔授業の内容を改善し活用した。</p> <p>概論スクーリングの授業評価は、総合評価4.8と昨年の4.1から大きく向上した。「学生自身」については、これまで評価が低かったが、今年度は4.4とこれまでの評価の中で最も高い結果だった。入学後、動機づけをする機会が限られる中、スクーリング初日の関りの工夫で、学生が自ら何をしたらいいかが具体的にイメージ出来た結果と思われる。</p> <p>実習スクーリングでは、ルーブリック評価表を用いて学生による自己評価を実施した。全体の傾向としては自己評価は高く、実習スクーリングを受けたことで自分が変化したと感じている学生が多い事を示していた。これらのことから学生の学習に対する満足度を向上させ、モチベーション高めるという課題は達成できた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>なし</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当科目の単位習得ができていない学生が、単位習得に向けて積極的に動けるように支援する。 ・ 本課程での教育成果のアウトプット資料として、全卒業生に対する調査を実施し、本課程の教育成果について分析する。 					

個人年間活動報告書

教員名	中野 順子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員、国際交流センター委員、自己点検評価委員、図書委員 臨地実習委員会（通信）委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・対面、遠隔授業の学習内容、方法をテキスト変更に伴い修正を図る。 ・ヒヤリ・ハット体験の研究成果の投稿を図る ・通信における教育成果の資料として、全卒業生に対する調査実施の準備を始める。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容、方法の見直しができる ・これまでのヒヤリ・ハットの研究成果の投稿を図る ・通信の教育成果を共同研究として進めて行く 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業において、学生との交流が図れるよう、シンキングタイムや小グループでの話し合いを取り入れ、一方的な講義にならないよう工夫した。テキスト変更に伴い、資料を別刷りとして活用したが、テキストと資料とスライドを複数提示した為、学習方法の評価は低かった。 ・論文投稿には至らなかったが、研究内容の問い合わせと、類似テーマで新しい研究の取り組みのアドバイスの機会を得て、協力した。 ・通信制課程としての共同研究の取り組みを始め、役割を分担した。 <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国境なき医師団、ユニセフ、国連UNHCRへの活動支援（マンスリーサポート） 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・通信制課程閉校に向けて、これまでの本課程の教育成果と問題点を研究としてまとめていき、2年課程通信制で学ぶ意義と課題を関係機関に提言する。 ・在籍者の卒業に向けて、チューターとしての役割を強化する。 					

個人年間活動報告書

教員名	丸岡洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	危機管理委員、 CCN-臨地実習委員会委員・通信教育委員会委員・教務委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、看護過程、看護過程演習、基礎看護学演習、 基礎看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<p>①学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を進める。チューターとの連携をはかり、タイムリーな支援を進める。</p> <p>②通信制課程の学生が、苦手意識の高い「看護過程」の学習への理解度を高めるための学習内容、授業展開、教材を再検討する。</p>					
本年度の目標					
<p>1. 学生個々の学習状況を踏まえた学習サポートを行う</p> <p>2. 学生が自身の成長を実感できる授業方法、教材の検討</p>					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>目標1：事務課の協力のもと、毎月の学習進捗状況を把握し、指導の必要な学生をピックアップしチューターへの働きかけを具体的に行った。その結果チューターからの指導頻度が上がり、学生の学習困難さも把握でき、個別の状況に応じた指導につながった。</p> <p>目標2：看護過程スクーリングは本年度が最後の授業となるが、従来のテキストが入手できない状況となったため、配布資料、視聴覚教材をさらに詳細にし、資料を通して紐解けるように工夫した。テキストがない分資料に集中して進めることができ、学生からの評価は高かった。</p>					
<p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p>					
<p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波市立看護専門学校 非常勤講師 生命倫理（内、看護倫理6 時間） ・兵庫県看護連盟 北播地区支部理事 					
今後の課題					
<p>①教務担当として令和4年度・令和5年度卒業に向けて、チューターと連携し学生個々の学習環境を考慮した学習支援をタイムリーに進める。</p> <p>②担当科目の早期単位取得に向けて指導を効果的に進める。</p>					

個人年間活動報告書

教員名	山岡 紀子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、研究倫理委員、臨地実習委員、通信教育委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数：210時間				
本年度の課題					
小児看護学実習履修に向けた取り組みの更なる強化。					
本年度の目標					
学生のレポート作成・提出を促すための具体的な支援を継続して実習履修につなげる。					
主な活動内容					
<p>1) 教育活動</p> <p>①テキスト科目：小児援助論・小児看護学演習のレポート添削、事後指導、学習相談。 学習会にてレポート作成の要点を提示した講義や指導を実施。</p> <p>②スクーリング科目：小児看護学概論（春・秋期共に対面にて実施） 小児看護学実習（対面実習スクーリング3日間×4回 + WEBにて実施）</p> <p>③チューター活動：担当学生の学修進捗確認や学習相談を、スクーリングや学習会、メールや電話にて実施。</p> <p>④国家試験対策委員会活動：国試オリ（対面&WEB）、模試（対面&自宅受験）、講座（WEB）、電話相談等。</p> <p>⇒昨年に続きコロナ対応に追われたが、可能な限り対面での授業や学習会を取り入れながら①～④について今年度実行可能な取り組みは実施できたため、目標はほぼ達成できたと考える。</p> <p>2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等 神戸市総合児童センターこべっこランド「極低出生体重児（1,500g未満）と保護者のための子育て教室 YOYO クラブ」</p>					
今後の課題					
小児看護学関連単位が未修得の学生への支援の強化。					

個人年間活動報告書

教員名	小坂素子	所属学科等	看護学科 通信制価値	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会副委員長、個人情報保護委員会、国家試験対策委員会副委員長、臨地実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論 母性援助論 母性看護学演習 母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の理解が深まるための教材の工夫と共に内容説明を工夫する必要がある。 2. チューターとして学生の状況に応じた迅速な対応について見直す必要がある。 3. 余裕を持って共同研究に取り組むために業務時間の計画調整が必要である。 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学習深化に繋げられるように作成した教材を咀嚼して伝える。 2. チューターの学生と対面できる機会を活用し、状況把握をおこなう。 3. 共同研究に取り組む。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1) 教育活動</p> <p>目標1：学生の感想や他の教員の授業を聴講し得たことから教材を工夫した。更に、その教材を活かす為、学生の学びが深まる説明の方法を工夫する必要がある。</p> <p>目標2：メールや電話での関りが主だった為、学生の状況把握が不十分であった。その為学生と直接会って学生の話に耳を傾ける必要がある。</p> <p>目標3：自身の研究がとん挫している。今進行中の共同研究では共同研究者と共に研究を完成させたい。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県助産師会：創立90周年記念行事に参加。 ・西宮助産師会：地域活動に参加 ・姫路赤十字看護専門学校：『マタニティサイクルにある人々の看護』の講師 ・神戸常盤大学：地域子育て総合支援施設で「卒乳・断乳」「孫育て講座」講師 					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習での学びが活かせる為のグループワークの工夫を図る。 ・学生との相互関係を充実させる機会を作る。 ・研究に費やす時間の捻出をする。 					

個人年間活動報告書

教員名	松原 渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	紀要委員会、SD委員会、看護学科通信制課程 臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の配布資料を改善し学生の反応を見ながら話すスピードをゆっくり展開できる。 ・研究テーマを論文にまとめることができる。 					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫をおこなう ・研究テーマに対する論文作成に取り組むことができる 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>昨年度に引き続きコロナ禍の中、精神看護学概論や精神看護学実習スクーリングをなんとか実施ができた。しかし、相変わらず「話すスピードが速い」「わかりづらい」という評価であった。理由の一つは授業方法に問題があったと考える。今後も謙虚に学生評価を受け止め研鑽を深めていきたい。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>兵庫県看護協会神戸西部支部教育委員会委員として役員会や研修会等に参与する。</p>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・1人でも多くの学生が卒業に向かっていけるように学習支援をすることができる ・研究テーマの調査研究を実施し論文作成に取り組むことができる。 					

個人年間活動報告書

教員名	西森有理子	所属学科等	看護学科 通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	通信教育委員・CCN臨地実習委員・CCN教務委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1) わかりやすい授業の工夫に努める。 2) 委嘱された委員、チューターの責務を果たす。 3) 共同研究の今年度目標を達成する。 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習スクーリングでのグループワークを充実させる 2) 委嘱された委員、チューターの役割を果たし、学生が課題を達成できるよう支援する。 3) 共同研究の今年度目標を達成する。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>目標1) 今年度の授業は全て対面で実施することができ、学生の反応を観ながら工夫することができた。概論スクーリングではDVDを活用し、施設での看護についてはスライドでの紹介を行いイメージできるように努めた。国家試験対策も考慮し、令和5年度国家試験出題基準（在宅看護論部門）を説明、各テーマ別に国家試験問題を紹介し、少しでも国家試験対策の動機づけになるように努めた。授業評価でも総合評価4.8（前年度4.6）と改善し授業での工夫は反映されたと考える。</p> <p>目標2) 各学年の学習の節目で担当学生（41名）に電話やメールで連絡をとり、学習が少しでも進むように支援を行った。しかし、1年生では3名が基礎実習に進めなかった。国家試験では18名中5名が不合格となった。単位修得の遅れが国家試験対策に響いた。2年次秋頃までに単位修得が修了するように支援することが課題である。</p> <p>目標3) 臨地実習委員、教務委員としてメンバーと協力し職務を果たせるように努めた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親支援「ゆったりホーム」ボランティア ・ユニセフ マンスリーサポート 					
今後の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習スクーリングでの事例検討を工夫する 2) 委嘱された委員、チューターの責務を果たす。 3) 共同研究の今年度目標を達成する。 					

個人年間活動報告書

教員名	川邊 玲子	所属学科等	看護学科 通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	広報委員会 臨地実習委員副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	老年看護学概論 老年援助論 老年看護学演習 老年看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対面授業での理解度を高めるためのわかりやすい教材・資料を作成する。 2. 学生の学習意欲が高まり興味がわくよう、指導方法を検討する。 3. 臨地実習委員会業務におけるの発言・提案、連携と作業効率の向上 					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業教材・資料作成にあたり自己研鑽と知識・技術の向上のための学びを深める 2. 学生の特性を考慮し、レベルに応じて学生指導を行う。 3. 広報委員会、臨地実習委員会副委員長としての職務を果たす。 					
主な活動内容・自己評価					
<p>1)教育活動</p> <p>目標1：授業評価をもとに、前年度の資料の改善を図り、対面授業を実施した。他県での授業では、現地での資料（グループワーク）作成にあたり、タイムラグを作ってしまったため、時間配分と作業効率においては改善が必要と考えた。事前に作成した資料については、「分かりやすい」という声もきかれたため、今後も分かりやすい資料を検討していく。</p> <p>目標2：学習が進んでいな学生も含めて、こまめに連絡を取り、モチベーションのアップ、または維持に努めた。今後も学生へのアプローチとして、電話やメッセージで励まし、悩みを聴くことで、意欲の向上につなげていきたい。</p> <p>目標3：臨地実習委員会副委員長として、委員長との連携を図り、作業効率のアップが図れた。今後も、実習に関する学生への対応、円滑に業務遂行できるよう今後も連携を図りながら活動する。</p> <p>広報委員会では、広報誌に関する作業として学生への依頼、推敲などを行い、提供することが出来た。</p> <p>2) 研究活動 「令和5年度 研究計画調書 前年度の研究活動」及び「リサーチマップ」参照</p> <p>3) 社会的活動等 奈良県救急安心センター 顧問（接遇研修・メンタルヘルス研修、指導）</p>					
今後の課題					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解度を高められる授業内容と資料、作業の工夫（グループワーク含む） 2. 学生の学習意欲を向上するための指導を考える 3. 委託された委員会での職務を円滑に果たせるよう工夫する 					